

秘

原案第十一條
及第四十三條

石油利權交渉最近狀況

(大正十四年十一月廿日調)

中里代表發來廷氏電報

田中大使意見

(一) 財產權及使用料
所有權問題ハ對政府間ノ交渉ニ讓レリ
財產使用料ニ付テハ我方對案ヲ以テ爲シ得ヘキ範圍ヲ過セリトシテ當テ折衝スル外ナシト雖之サヘモ先主張ヲナスニ當リ本使提議ニ對シ方カ與セス然モ決裂ヲ避クルトス先方カ與セヌ場合ハ暫ク懸案トシレハ最後ノ場合ハ先方ノ財產ヲ使立場ヲ確立シ置クコト
用セサルノ覺悟ヲ以テ進ムノ外ニ使用料ニ付テハ或ルヘク負擔ヲ輕カルヘシ
(參照對案第四十三條)
財產使用料ハ一割ヲ三分トシ且使サル方針ノ下ニ必要ノ規定ヲ設ク用期間中ノ未拂財產評價ハ毎年遞減スルコト
右案認サレサレハ一定期間毎年一定金額ヲ納付シ之ニ代ユルコト

(二) 將來輸入設備スル財產ニ付テハ我方ニ使用及收益ノ實權アリ唯處分權ニ條件アルノミニシテ先方カ

(已號用紙)

外務省

MT 1710372 155

在京常業者ノ意請
(十一月十九日發代表
宛電報ニ依ル)

第十九條

財產使用料ニ付テハ今尙先方ノ意見セサル所ナリ

(二) 優先買上權
對案第十九條
第一案、削除ヲ要求スルコト
第二案、十萬噸以上ハ一割以内
第三案、十萬噸以上ハ二割以内トス
第三案、十萬噸以下五分以上、十

見方ニヨリテハ先方ノ說明スル如ク單ニ一ノタフイジカルノモノニ屬スルヲ得ヘク又實質問題トシテ租スル者カ起債ノ場合其ノ擔保トナルハ鐵業利權自體ニシテ其ノ設備財產ノ如キハ重ク置クニ足ラサルヘク且先方モ所有權アリトスルモ利權者ノ財產目錄中ニ(三條)之ヲ掲記スルモ差支ナカルヘキノ旨ヲ規定モナキモノニ付萬一第ニ於テモ之ニ同意スルコト

若シ中里代表ノ交渉行儀ニ於テハ北京條約ノ規定及精神ニ依リ本使ヨリモ政府ニ對シ直接交渉スヘキモ已ムヲ得サレハ
(四) 成程度以上ノ産額ニ對シ若干ノ

外務省

MT 1710372 156

1-1968

石油利權交渉最近状況

(大正十四年十一月廿日調)

中里代表發來廷氏電報

田中大使 意見

(一) 財產權及使用料

所有權問題ハ對政府間ノ交渉ニ讓レリ
 財產使用料ニ付テハ我方對案ヲ以テ然爲シ得ヘキ範圍ヲ選定セリトシテ當
 テ折合フノ外ナシト雖之サヘモ先主張ヲナスニ儘ミ本使提議ニ對シ
 方カ斷セス然モ決裂ヲ避クルトス先方カ斷セス爲合ハ暫ク懸案トシ
 レハ最後ノ場合ハ先方ノ財產ヲ使我立場ヲ確立シ置クコト
 用セサルノ覺悟ヲ以テ進ムノ外ナ使用料ニ付テハ尙ルヘク負擔ヲ輕
 カルヘシ
 (參照對案第四十三條)
 財產使用料ハ一割ヲ三分トシ且使サル方針ノ下ニ必要ノ規定ヲ設ク
 用期間中ノ未拂財產評價ハ毎年遞ルコト
 右容認サレサレハ一定期間毎年一分額ニ適用及收益ノ實額アリ唯處
 定金額ヲ納付シ之ニ代ユルコト

外務省

(已號用紙)

MT 171037ス 155

在京當業者ノ意情
十一月十九日發代表
宛電報ニ依ル

財產使用料ニ付テハ今尙先方ノ意見
セサル所ナリ

(已號用紙)

見方ニヨリテハ先方ノ說明スル如ク
 單ニ一ノタフイジカルノモノ
 ニ屬シ要スルニ法實の觀念ノ相違
 ト稱スルヲ得ヘク又實問題トシ
 トナシ利權者カ起債ノ場合其ノ擔保
 設備財產ノ如キハ重ク置クニ足ラ
 サルヘク且先方セ所有權アリトス
 ルモ利權者ノ財產目錄中ニ(三條)
 之ヲ掲記スルモ差支ナカルヘキ
 ミナラス契約案中先方ニ所有權ア
 ル旨ノ規定モナキモノニ付萬一第
 四條ノ削除ヲ先方カ肯セサル場合
 ニ於テモ之ニ同意スルコト

優先買上權
 案第十九條
 一案、削除ヲ要求スルコト
 二案、十萬順以上ハ一割以内
 三案、十萬順以上ハ二割以内トス
 三案、十萬順以下五分以上、十

若シ中里代表ノ交渉行儀ニ於テハ
 北京條約ノ規定及精神ニ依リ本使
 ヲリモ政府ニ對シ直接交渉スヘキ
 モ已ムヲ得サレハ
 (四) 成程度以上ノ産額ニ對シ若干ノ

外務省

MT 171037ス 156

1-1968

0:06

第十八條

(四) 穀價率並騰穀及公糧
當初ノ目論見番ノ經費ト先方原案
ニテ契約シタル場合ノ經費トチ比

(三) 地 域
一千平方里ノ試掘區域ハ將來如
何ナルモノチ先方カ指定スルカ全
然不明ナリ

萬噸以上ハ一割五分以内、二十
萬噸以上ハ二割五分以内トシテ
買上チ認ムルコト

既開油田地區確定ニ就テハ議定
(a) 試掘區域ノ範圍ニ於テ一致點ヲ見出
(b) 試掘區域ノ掘定權者及地域確定
ニ就テハ條約ノ明文ニ不拘契約調
印前強テ解決チ期スルニ於テハ却
テ我方ノ被害痛トスヘキ試掘ノ後
務問題等ヲ誘發スルノ虞無キニテ
ラサルニ願ヒ契約調印後ニ解決チ
期スルコト

(已) 號用紙

要スルニ本件ハ收益的經營ノ能否
ニ關スル問題ナルカ騰穀及公糧ニ
對シテ思考スルヘキモ
穀價率並騰穀及公糧ニ對スル騰穀ハ
免除セラレヘキモ

(己) 號用紙

外 務 省
外 務 省
外 務 省

MT 1710372

較スル時ハ豫算増加トナルモ産額ハ先方ニ於テ國內最惠待遇ヲ
 加トナル之ニ對シテ先方ノ案ニ依ルハ合ト
 十萬噸ノ時結局三十萬六千圓ノ増額ヲ
 而シテ先方主張ヲ讓步セシムルニ
 本代表如何ニ折衝スルモ先方容レ
 サレハ不得已先方案ヲ以テ調印ス
 結セサルヘカラスト場合ニハ
 先方案ヲ以テ調印シタル場合ニハ
 第三年目迄ハ缺損トナルモ其後ニ
 於テハ略採算ノ見込ツカ故ニ若
 シ出來得レハ内部の負擔ヲ最少限
 度ニ止メ之ニヨリ生産増加ノ方法
 ヲ講シテ收入を増加シテ負擔ニ非
 新會社ノ經營必スシモ困難ニ非
 ト思考ス

一 參照對案第十八條一報償ハ六萬
 五千圓ヨリ初メ一萬噸ヲ増ス毎ニ

二 原五毛ヲ加フルコトトシ且納付
 ハ加州油山元直度ヲ以テ金納トス
 一 參照對案第二十條一税金ハ單一
 稅トシ納付ハ第十八條報償ト同様

報償率ハ
 超過額ニ
 對シテ加
 ミ増サレ
 ハラサレ
 ノ結果平
 生ノ金納
 歩油合モ
 ノ場合油
 加州原油
 標準價段
 上以テ買
 合ニ適場
 合ニ適用
 セラレサ
 タル注シ
 算支ノ決

外務省

巨額用紙

MT 1710372 158

於テ三年間缺損
 成立ノ見込ナキ
 一及第七基キニ
 於テ分ナリトモ利益
 於テ得ル程度ニ負擔
 トラレ度ク若シ先方
 セラレ度ク若シ先方
 歩ラレ度ク若シ先方
 協定成立スルハ最
 新會社ノ成立ハ到底

巨額用紙

外務省

MT 1710372 159

1-1968

増加トナルモ産額
 三六千四百ノ増
 一五五千四百トナ
 他國ニ對スル納付金
 一萬五千四百トナ
 三六千四百ノ増
 一五五千四百トナ
 他國ニ對スル納付金
 一萬五千四百トナ
 三六千四百ノ増
 一五五千四百トナ
 他國ニ對スル納付金
 一萬五千四百トナ

外務省

報債率ハ
 超過額ニ
 對シテ
 増加セ
 ラルナ
 ラハ公平
 ノ結果ナ
 生スヘシ
 歩金納
 加場合モ
 州原油
 標準値段
 上以テ買
 合ニ適場
 合ニ適用
 セラレサ
 ル様注サ
 算支ノ決

(E 號用紙)

MT 1710372 158

照五毛ヲ加フルコト
 加州油山元值段ヲ以テ金納トス
 參照對案第二〇條一税金ハ單一
 トシ納付ハ第十八條報債ト同様

外務省

MT 1710372 159

於テ三年間快損トナリテハ新
 成立ノ見込ナキニ於テハ新
 一及第七ニ基キ二年目迄ノ計
 於テ得ル利益ニ於テ於テ於
 トテ得ル利益ニ於テ於テ於
 セラレ度ク若シ先方ニ於テ
 歩ヲ背セサレハ他ノ於テ於
 協定成立スルトモ最終ノ目
 新會社ノ成立ハ到底望ナシト
 信ス

1-1968

第三十條

(五)、社會保險料
對案第三十條、社會保險料ハ之ヲ
認ムルモ政府ノ病院設備完成スル
迄ハ全額十八%ノ内醫療衛生費ニ
對スル四、五%ハ控除スルコト

第三十一條

(六)、労働者割合
労働者割合ハ大體ニ於テ原案ヲ認
メ日本人ノ雇傭ヲ容易ナラシメ一
般労働者ノ雇傭條件ハ豫メ協定ス
ルコトトス
但シ本條ノ適用ハ三年間延期セシ
ムルコト

第三十七條

(七)、火災保險
對案第三十七條、原案ヲ認ムルモ火
災ノ虞ナキモノハ附保物件ヨリ除
クコト
(八)、先方追加提案、賠償ノ件

已 號 用 紙

外 務 省

MT 171037Z 160

已 號 用 紙

調印後一ヶ月ハ現ニ作業ヲ繼續シ
居ルモノニ引續キ作業繼續ヲ委任
シ得ルコトヲ要求ス

(九)、結 論

留保問題ハ各個ヲ研究スルニ所有
權問題ヲ對政府間ノ交渉ニ譲リタ
ル今日國防上ヨリ見タル買上問題
ヲ除キ結局
新會社ノ収益的經營力可能ナリヤ
否ヤノ點ニ依リ最後ノ決心ヲ定ム
ルノ外ナシ
右ニ對スル暗礁ニアリ
一、財産使用料ニ付先方今尙言明セ
サル所ナルコト
二、一千平方畝里ノ試掘區域ハ將來
如何ナルモノヲ先方カ指定スル
カ全然不明ナルコト
十六日夜最終會議ヲ開ク豫定ナル
カ先方ハ甚タ強硬ニシテ一部多少
ノ讓歩ヲ見ルヘキモ大部分ハ最後

以上ノ條件ニテハ契約締結期日
迄ニ解決困難カト豫測セラレ又此
際頓挫セハ後日更ニ有利ナル展開
ヲ見難キヤニ思考セララル

外 務 省

MT 171037Z 161

紋上以外ニ於テハ
貴下最終ノ對案ハ
大体已ムヲ得サル
ヘシ

1-1968

社會保險料

第三十條、社會保險料ハ之ヲ
ルモ政府ノ病院設備完成スル
金額十八%ノ内警察衛生費ニ
ル四、五%ハ控除スルコト

労働者割合

者割合ハ大體ニ於テ原案ヲ認
本人ノ報酬ヲ容易ナラシメ一
働者ノ報酬條件ハ豫メ協定ス
トトス
本條ノ適用ハ三三年間延期セシ
コト

火災保險

第三七條、原案ヲ認ムルモ火
災ナキモノハ附保物件ヨリ除
ト

先方追加提案、賠償ノ件

(已 號用紙)

外務省

MT 171037ズ 160

(已 號用紙)

以後一ケ年ハ現ニ作業ヲ繼續シ
モモノニ引續キ作業繼續ヲ委任
得ルコトヲ要求ス

是以上ノ條件ニテハ契約締結期日
迄ニ解決困難カト豫測セラレ又此
際頓挫セハ後日更ニ有利ナル展開
ヲ見難キヤニ思考セラル

紋上以外ニ於テハ
貴下最終ノ對案ハ
大體已ムヲ得サル
ヘシ

結論

本問題ハ各個ヲ研究スルニ所有
日國對政府間ノ交渉ニ關リタ
日國防上ヨリ見タル買上問題
ニ結局
社ノ収益的經營力可能ナリヤ
ノ點ニ依リ最後ノ決心ヲ定ム
外ナシ
對スル暗礁ニアリ
遂使用料ニ付先方今尙言明セ
ル所ナルコト
千平方餘里ノ試掘區域ハ將來
何ナルモノヲ先方カ指定スル
全然不明ナルコト
日夜最終會議ヲ開ク豫定ナル
方ハ甚ダ強硬ニシテ一部多少
歩ヲ見ルヘキモ大部分ハ最後

外務省

MT 171037ズ 161

1-1968

卸子利権期間最後ノ五ヶ年間ニ設
 備セルモノニシテ減價消却未済ノ
 モノハ政府ノ同意ニヨリ煉瓦家屋
 ハ毎年五%木造家屋機械器具等ハ
 十%ノ率ヲ以テ期間満了後政府ヨ
 リ利権者ニ賠償スル案ニ對シテハ
 最後ノ五ヶ年ト限ラズ政府ニ引渡
 スヘキ財産中消却未済ノモノハ總
 テ長期ニ亙ル消却ヲ以テ計算賠償
 セシムルコトヲ第一案トシ前記ノ
 率ヲ用ユルモノヲ第二案トス何レ
 モ容レラレサレハ原案ノ五年ヲ十
 ケ年トスルコト

(ウ) 當方追加提案
 政府ハ契約效力發生ト同時ニ作業
 繼續ノ現狀ノ儘當該企業ヲ利権者
 ノ經營ニ委スルコト
 第十一條ニヨリ引渡サルヘキ財産
 ト雖引渡終了ニ至ル迄之ヲ使用シ
 得ルコト

(E) 號用紙

外務省

MT 171037Z 162

迄主張ヲ托ケサルトモ知レヌ其ノ
 時ノ覺悟ハ今ヨリ定メ置カサルヘ
 カラス

(E) 號用紙

外務省

MT 171037Z 163

1-1968

0112

（イ）

十月二十日發電

在 蘇

田 中 大 使

幣 原 大 臣

莫斯科利權交渉ニ關スル件

貴電第四八〇號稟申ニ付テハ關係官廳トモ協議シ篤ト考慮ヲ加ヘタ
リ此際契約ノ成立ヲ期スルコトハ大局ニ於テ得策トスルコトハ貴見
通りナルカ當業者側ニ於テモ採算上其他ノ點ヨリ見テ相當ノ注文ア
リ直ニ多大ノ讓歩ヲナスハ困難ナル狀況ニ在リ就テハ貴官ハ交渉ヲ
成立セシムル方針ノ下ニ左記趣旨ニテ取計ハレタシ

秋

甲 第

外 務 省

MT 171037Z 167

(已 號 用 紙)

(一) 財産權及使用料ノ問題中

(1) 現存財産ニ就テハ往電第三三一號ノ通りニシテ日本側ノ施設セ
ルモノニ對シテ我所有權ヲ否認セントスル先方ノ主張ハ俄ニ主
肯シ難シ依テ先方ニ對シ貴官ヨリモ極力我主張ノ貫徹ニ努メラ
ルルコトヲ希望スル次第ナルモ絶對ニ先方カ之ヲ容認セサル場
合ニハ貴見ノ通り暫ク將來ノ懸案トナスコトモ致方ナシ但シ其
場合ト雖モ所謂先方ノ財産ノ何物タルヤヲ承知シ置クノ必要ア
ルハ往電第三一七號ノ通りナルヲ以テ現存露國固有財産ト稱ス
ルモノノ範圍及評價額ヲ明示セシムルコトヲ要ス
(2) 將來輸入設備スル財産ニ就テハ財産所有權カ我方ニ在ルヘキハ
往電第三〇八號ノ通りニシテ勞農側ノ之ニ對スル意見ハ之ヲ突

外 務 省

MT 171037Z 168

1-1968

止メ報告アル様取計ハレタキカ宛ニ角貫官ヨリモ我方ノ主張ヲ
申入レラレタル上先方ノ主張ニシテ相當ノ根據アル場合ニハ第
四條ハ之カ存置ニ同意セラレテ可ナリ

(E) 號用紙

外務省

MT 1710372

169

(二) 戰時事變ニ際シ先方ニ或ル程度ノ買上權ヲ認ムルハ已ムヲ得サル
所ナラムモ當時先方ノ優先買上權ヲ認ムルコトハ北京條約ノ規定
及精神ニ違背スルモノナリ依テ貫官ヨリモ政府ニ對シテ右趣旨ヲ
以テ篤ト交渉セラレタキカ萬々止ムヲ得サル場合ニハ自國用ニ限
リ或程度ノ買上ヲ認ムルコトトシ(一)年産額二十萬屯以内ノ場合ニ
就テハ貴電第四二八號所載中里案第三案ニヨリ(二)年産額二十萬屯
以上ノ場合ハ報償ヲ合算シ同産額ノ三割ヲ超ヘサル範圍内ニテ成
ルヘク我方ニ有利ナル様買上率ヲ取極メシメラレ差支ナシ但シ右
約定ヲナス場合ニハ之ヲ契約ノ本文ニ加ヘス別箇ノ契約トナシタ
キ希望ナリ

(E) 號用紙

外務省

MT 1710372

170

1-1968

0116

(巨 號 用 紙)

(三) 地域ノ問題ニ付テハ末延ヨリ中里宛電報ノ趣旨ニ依リ今一應交渉セシムル様致サレタシ

(四) 報償率、課税及公課ノ問題ニ付テモ右ニ同シ

(五) 前顯貴電末段ニ付テハ双方共可成所定期間内ニ成立スルコトヲ希望スル次第ナルカ若シ其一方カ話合繼リタル場合ニ他ノ一方カ未成立ナル理由ヲ以テ之カ調印ヲ差控エシムル必要ナシ但シ早目ニ話合繼リタル分ノ調印ヲ所定期日ノ切迫スル迄引延ハスコトハ適宜取計ハレ差支ナシ

外 務 省

MT 1710372

171

1-1968

未定

第二條

第一條

契約前文

露國側原案

石炭ニ關スル交渉經過

(大正十四年十一月廿七日調)

奥村ノ主張

(財産問題)

(法令遵守義務)

(議決)

契約ノ一方當事者ハ北京議定書(乙)ニ基キ日本政府ノ推薦シタル組合トナスコトニ一致

(最後案)
先方案ヲ承認スル代リニ追加條項タル減價償却方法ハ我方案ヲ承認スルコト

(減價償却未済額ハ政府之ヲ賠償シテ引取ルコトノ規定挿入ヲ本會議ニ於テ先方承認ス)

外務省

MT 171037ズ

173

秘

乙 張

第三七六號

在「ソツイエト」聯邦 田中 大 使

幣原大臣

十一月二十日發受

石炭利權交渉懸案ニ關スル常業者意見ハ未延ヨリ奥村へ別電第三六九號ノ通りナルニ付貴使ニ於テモ右ノ趣旨ニ依リ代表者ヲシテ今一應交渉セシムル様致サレタシ尙地域問題中「ウエルブリユド」區域ノ除外ニ就テハ現ニ作業中ノ「ゾーエ」炭坑一帯ハ北京交渉ノ際ニモ之ヲ許與スヘキ趣旨ニテ詰合ヒシタル義ナルニヨリ右區域モ成ルヘク我方ニ許與セシムル様貴使ヨリモ露國側へ交渉相成様致シタシ

外務省

MT 171037ズ

172

1-1968

日 號 用 紙

在「ソツイェト」聯邦
田 中 大 使

幣 原 大 臣

第三七六號

石炭利權交渉懸案ニ關スル常業者意見ハ未延ヨリ奥村ヘ別電第三六九號ノ通りナルニ付貴使ニ於テモ右ノ趣旨ニ依リ代表者ヲシテ今一應交渉セシムル様致サレタシ尙地域問題中「ウ エ ル プ リ ュ ド」區域ノ除外ニ就テハ現ニ作業中ノ「ツォーエ」炭坑一帯ハ北京交渉ノ際ニモ之ヲ許與スヘキ趣旨ニテ話合ヒシタル義ナルニヨリ右區域モ成ルヘク我方ニ許與セシムル様貴使ヨリモ露國側ヘ交渉相成様致シタシ

秘

乙 張

外 務 省

MT 171037ズ 172

日 號 用 紙

契 前 約 文

露 國 側 原 案

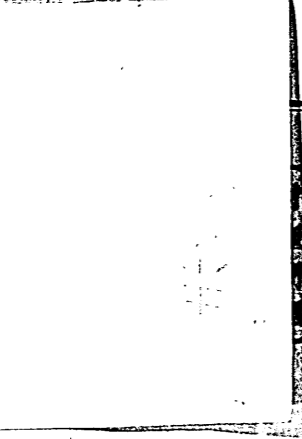
石炭ニ關スル交渉經過

(大正十四年十一月廿七日調)

奥 村 ノ 主 張

契約ノ一方當事者ハ北京議定書(乙)ニ基キ日本政府ノ推薦シタル組合トナスコトニ一致

第一條



第二條

(法令遵守義務)

(議決?)

(最後案)
先方案ヲ承認スル代リニ追加條項タル減價償却方法ハ我方案ヲ承認スルコト
(減價償却未済額ハ政府之ヲ賠償シテ引取ルコトノ規定挿入ヲ本會議ニ於テ先方承認ス)

十議決

外 務 省

MT 171037ズ 173

第三條
 第四條
 第五條
 第六條
 第七條
 第八條

<p>(法人格承認) (財産引渡ト財産保存義務)</p>	<p>(財産保障)</p>	<p>(契約上ノ権利保障) (企業ノ管理經營權保障) (地質學者技師ノ研究及高等技術學校學生卒業生ノ實</p>
<p>(議決?) (最後案) 先方原案承認ノコト、其代 リ追加條項タル原價償却方 法ニ關スル日本案ヲ承認セ シムルコト(第一案ト關聯 ス)</p>	<p>(議決?) 第二項トシテ政府ハ一方的 行爲ヲ以テ第三十三條ノ場 合ノ外本利權契約ヲ取消シ 又ハ變更スルコトナシトノ 規定ヲ加フルコトトナシト リ</p>	<p>(議決?)</p>
<p>議決</p>	<p>議決</p>	<p>議決</p>

外務省

已 號用紙

MT 171037z 174

1-1968

0:20

L

第九條
第十條

MT 171037Z 175

習許容義務
(權利義務ノ無許可移轉禁止義務)
(地域問題)

地域問題
小企業者ニ對スル地域ハ大
體遺憾ナキ程度ニ於テ繼
ル見込
企業組合ノ地域「ウラジ
ロフスキ」獲得ノ見込
レトモ「ツエー」ロガ
ツイニ關シテハ先方ノ主
張益々鞏固ヲ加フ斯クテハ
一、兩年ノ間全然出炭ヲ見
サルコトナリ經營上非常
ノ不利益ナルヲ以テ極力
ガ「ツエー」ヲ固執シ「ベル
ブル」ド「ク」ノ廢除ヲ強
要シ居ルモ結局ノ見込甚
少シ

(議決)
(議決)

(議決)
下議決

E 號用紙

外

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page, including the date 1-1968.

- 第二十三條
- 第二十二條
- 第二十一條
- 第二十條
- 第十九條
- 第十八條
- 第十七條
- 第十六條

<p>（課稅支拂義務）</p> <p>（企業用物件及物資ノ輸入）</p> <p>（輸入品ノ市場販賣禁止）</p> <p>（土地使用權）</p> <p>（附帶設備權）</p> <p>（土砂等採取權）</p> <p>（水及水力利用權）</p> <p>（森林採伐權附採林地域間）</p>	<p>（議決）</p> <p>（最後案）</p> <p>税金ハ報償ノ二十%</p> <p>（但先方ハ賣上高ノ三、三%</p> <p>ヲ主張）</p> <p>多少ノ修正ヲ加ヘテ議決ス</p>	<p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p>
--	--	---

MT 171037ズ 177

外務省

- 第十一條
- 第十二條
- 第十三條
- 第十四條
- 第十五條

<p>（政府財産ノ引渡方法）</p> <p>（作業實施上ノ義務）</p> <p>（期限）</p> <p>（報償）</p> <p>（産炭ノ無稅輸出及産炭五）</p>	<p>（議決）</p> <p>（議決）</p> <p>多少ノ修正ヲ加ヘテ議決ス</p> <p>報償問題</p> <p>報償ノ支拂ハ現物ヲ以テ積</p> <p>出後甲板渡トシ棧橋又ハ海</p> <p>岸ヨリノ積込費ハ「ソウヴイ</p> <p>エト」側負擔ノコトニ決定</p> <p>ス</p> <p>（最後案）</p> <p>五十萬噸ハ五%</p> <p>百萬噸ニテ八%ニ達ス</p> <p>税金ハ報償ノ二十%トス</p> <p>尙小企業者ニ對スル報償ハ</p> <p>大體遺憾ナキ程度ニ於テ繼</p> <p>マル見込</p>	<p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p> <p>（議決セリ）</p>
---	--	---

MT 171037ズ 176

外務省

1-1968

第三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條

<p>(財產ヲ火災保險ニ附スル義務)</p> <p>(企業引渡義務)</p> <p>(不可抗力ニヨル契約ノ實行延期問題)</p> <p>(契約満期前ノ破棄)</p> <p>(損害賠償義務)</p> <p>(爭議解決方法)</p> <p>(政府財産使用料納付義務)</p>	<p>多少ノ修正ヲ加ヘ議決ス</p> <p>(保險金ハ利權者ノ名義ヲ以テ「ゴスバンク」ニ預金シ利權企業ノ爲ニ充テラルヘキモノトスル趣旨ノ條ヲ加ヘテ原案ヲ承認セリ)</p> <p>決定ヲ見ルコト容易ナリ</p> <p>今後一、二回ノ會合ニ依リ決定シ得ヘキ見込</p> <p>(議決ス)</p> <p>(議決ス)</p> <p>(議決ス)</p>	<p>十議決セリ</p> <p>十議決セリ</p> <p>十議決セリ</p>
---	---	--

外務省

MT 1710372 179

第二十四條
第二十五條
第二十六條
第二十七條
第二十八條
第二十九條

<p>(労働法適用及社會保險料納付義務)</p> <p>(外國従業員及労働者使用率)</p> <p>(労働者簡易入國手續)</p> <p>(電話設備及利用權)</p> <p>(港灣入港沿岸航行權)</p> <p>(築港及港灣設備權)</p>	<p>多少ノ修正ヲ加ヘ議決ス</p> <p>(先方ニ於テ醫療設備ヲ行フニ至ル迄社會保險料中ヨリ醫療目的ニ振當ツノ分減額方別ニ書面ヲ以テ諒解ヲ遂ケ置クコトニ決定ス)</p> <p>(最後案)</p> <p>國籍割合ハ仕事ノ種別ニ依ル割合ヲ参照シ總計ニ於テ露國人五割、但坑内夫及積込人夫ハ最初十年間ハ無條件</p> <p>多少ノ修正ヲ加ヘ議決ス</p> <p>(議決ス)</p> <p>(議決ス)</p>	<p>十議決セリ</p> <p>十議決セリ</p> <p>十議決セリ</p>
--	--	--

外務省

MT 1710372 178

1-1968

0123

秘

原案第十一
條及第四十
三條

石油利權交渉経過

(大正十四年十一月吉日調)

中里代表發未延氏電報

田中大使意見

(一) 財產權及使用料

所有權問題ハ對政府間ノ交渉ニ讓
レリ
財產使用料ニ付テハ我方對案ヲ以
テ折合フノ外ナシト雖之サヘモ先
方カ應セス然モ決裂ヲ避クルトス
レハ最後ノ場合ハ先方ノ財產ヲ使
用セサルノ覺悟ヲ以テ進ムノ外ナ
カルヘシ

(參照對案第四十三條)

財產使用料ハ一割ヲ三分トシ且使
用期間中ノ未拂財產評價ハ毎年遞
減スルコト

右容認サレサレハ一定期間毎年一
定金額ヲ納付シ立ニ代ユルコト

(二) 現存財產ニ關シ先方ハ我占領中
ノ措置カ保障占領ノ效果トシテ當
ノ措置ヲ得ヘキ範圍ヲ逸脱セリト
然爲シ得ヘキ範圍ヲ逸脱セリト
主張ヲナスニ鑑ミ本使提議ニ對シ
先方カ應セヌ場合ハ暫ク懸案トシ
我立場ヲ擁護シ置クコト

使用料ニ付テハ成ルヘク負擔ヲ輕
減スル様交渉セシメ萬一應セサル
ハ先方ノ提供スル財產ヲ使用セ
ルコト

將來輸入設備スル財產ニ付テハ
我方ニ使用及收益ノ實權アリ唯處
分權ニ條件アルノミニシテ先方カ
其ノ所有ナリト主張スル所有權モ

外務省

MT 171037/2

181

已読用紙

方

第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條

(他礦物不採取)

(印紙稅納付義務)

(契約正本ノ保管ト謄本ノ交付)

(契約書ノ裁判上ノ宛名)

又ハ大修繕ヲ關ヘタル時ハ其費用ハ原價ヨリ控除スルコトトスヘキヲ主張シ先方同意セス結局留保トナル(最後案)

使用料ハ使用期中評價額ノ三割トスルコト

(議決)

多少ノ修正ヲ加ヘ議決ス

(議決)

多少ノ修正ヲ加ヘ議決ス

(議決)

以上最後案ハ收益的經營ノ限度ヲ超ヘタル極度ノ讓歩ナリ

(田中大使ハ收益的經營ノ限度ヲ超ヘタリトノ斷案ヲ下シ難キモノト認ム)

外務省

MT 171037/2

180

已読用紙

MT 171037Z

(四) 報償率並課税及公課
當初ノ目論見書ノ經費ト先方原案
ニテ契約シタル場合ノ經費ト比

然不明ナリ
何ナルモノヲ先方カ指定スルカ全
一平方露里ノ試掘區域ハ將來如
(三) 地域

萬噸以上ハ一割五分以内、二十
萬噸以上ハ二割五分以内トシテ
買上ヲ認ムルコト

(三) 地域

(a) 既開油田地區確定ニ就テハ認定
書所定ノ範圍ニ於テ一致點ヲ見出
スヲ得可ク
(b) 試掘區域ノ撰定權者及地域確定
ニ就テハ條約ノ明文ニ不拘契約調
印前強テ解決ヲ期スルニ於テハ却
テ我方ノ最苦痛トスヘキ試掘ノ義
務問題等ヲ誘發スルノ阻無キニア
ラサルニ願ミ契約調印後ニ解決ヲ
期スルコト

買上權ヲ認ムルカ又ハ
(b) 契約ノ規定上右以上ノ率ヲ認ム
ルモ別ニ該權利行使制限ニ關スル
何等カノ諒解ヲ取り置クコト

要スルニ本件ハ收益的經營ノ能否
ニ關スル問題ナルカ課税及公課ニ

外務省

報償率並課税及公課
當初ノ目論見書ノ經費ト先方原案
ニテ契約シタル場合ノ經費ト比

既開油田
試掘區域ノ撰定權者及地域確定
ニ就テハ條約ノ明文ニ不拘契約調
印前強テ解決ヲ期スルニ於テハ却
テ我方ノ最苦痛トスヘキ試掘ノ義
務問題等ヲ誘發スルノ阻無キニア
ラサルニ願ミ契約調印後ニ解決ヲ
期スルコト

(E) 號用紙

(二) 優先買上權
對案第十九條
第一案、削除ヲ要求スルコト
第二案、十萬噸以上ハ一割以内
第三案、十萬噸以上ハ二割以内トス
第三案、十萬噸以下五分以上、十

財產使用料ニ付テハ今尙先方ノ言
明セサル所ナリ

先方ニヨリテハ先方ノ説明スル如
ク單ニ「メタフイジカル」ノモノ
ニ屬シ要スルニ法學的觀念ノ相違
ト稱スルヲ得ヘク又實質問題トシ
テモ利權者カ起債ノ場合其ノ擔保
トナルハ營業利權自體ニシテ其ノ
設備財產ノ如キハ重ヲ置クニ足ラ
サルヘク且先方モ所有權アリトス
ルモ利權者ノ財產目錄中ニ「三條
之ヲ掲記スルモ差支ナカルヘキ
ミナラス契約案中先方ニ所有權
ル旨ノ規定モナキモノニ付萬一第
四條ノ削除ヲ先方カ肯セサル場
ニ於テモ之ニ同意スルコト

若シ中里代表ノ交渉行儀ニ於テハ
北京條約ノ規定及精神ニ依リ本使
ヨリモ政府ニ對シ直接交渉スヘキ
モ已ムヲ得サレハ
(a) 或程度以上ノ産額ニ對シ若干ノ

外務省

MT 171037Z

(E) 號用紙

二厘五毛ヲ加フルコトトシ且納付
ハ加州油山元値段ヲ以テ金納トス
（参照對案第二十條）税金ハ單一
稅トシ納付ハ第十八條報償ト同様

外務省

省

(已就用紙)

Handwritten notes in Japanese at the bottom of page 185.

較スル時ハ豫算増加トナルモノ産
額十萬噸ノ時結局三十萬六千圓ノ
増加トナル之ニ露國ニ對スル納付
金ヲ合算スレハ四十一萬五千圓ト
ナリシテ先方主張ヲ讓歩セシムルニ
足ル有效ナル理由ヲ思考スルニ
本代表如何ニ折衝スルモ先方容レ
サレハ不測ノ先方案ヲ以テ調印ス
ル場合即最悪ノ場合ト雖契約ヲ締
結セサルヘカラスト決心セリ
先方案ヲ以テ調印シタル場合ニハ
第三年目迄ハ缺損トナルモ其後ニ
於テハ略採算ノ見込立ツカ故ニ若
シ出來得レハ内部的負擔ヲ最少限
度ニ止メ之ニヨリ生産増加ノ方法
ヲ講シ以テ収入増加ヲ圖ル等セハ
新會社ノ經營必スシモ困難ニ非ス
ト思考ス

産就テハ先方ニ於テ國內最惠待遇ヲ
與ヘ居ルノミナラヌ假ニ報償率其
他負擔額ヲ先方ノ案ニ依ル場合ト
雖若シ利權者ニシテ特殊負擔(北
辰會ニ對スル鑽業權二百三十萬圓
及海軍省關係ノ七十四萬圓等)ナ
キ限り優ニ採算ハ可能ナル趣ナル
ト共ニ右特殊負擔ニ就テハ先方ヲ
首肯セシムルニ至難ナルヘキニ願
ミ我方ノ立場ヨリ見テ採算可能ナ
リトスル程度ニ先方ヲ讓歩セシム
ルコトハ到底困難ナルヤニ認メラ
レ又右特殊負擔ト雖四、五年ノ長
期ニ割當テラハ換算ニ大影響ア
ルヘシト認メラハ換算ニ大影響ア
ルヘキニ付結同先方ノ最後ニ讓歩ス
ル點ニ同意スルコト

外務省

(已就用紙)

Handwritten notes in Japanese at the bottom of page 184.

第三十條

(五)、社會保險料
對案第三十條、社會保險料ハ之ヲ認ムルモ政府ノ病院設備完成スル迄ハ全額十八%ノ内醫療衛生費ニ對スル四、五%ハ控除スルコト

第三十一條

(六)、勞働者割合
勞働者割合ハ大體ニ於テ原案ヲ認メ日本人ノ雇傭ヲ容易ナラシメ一般勞働者ノ雇傭條件ハ豫メ協定スルコトトス
但シ本條ノ適用ハ三年間延期セシムルコト

第三十七條

(七)、火災保險
對案第三十七條、原案ヲ認ムルモ火災ノ虞ナキモノハ附保物件ヨリ除クコト

(八)、先方追加提案、賠償ノ件

(E 號用紙)

外務省

MT 171037Z 186

(E 號用紙)

即チ利権期間最後ノ五ケ年間ニ設
備セルモノニシテ減價消却未済ノ
モノハ政府ノ同意ニヨリ煉瓦家屋
ハ毎年五%木造家屋機械器具等ハ
十%ノ率ヲ以テ期間満了後政府ヨ
リ利権者ニ賠償スル案ニ對シテハ
最後ノ五ケ年ト限ラヌ政府ニ引渡
スヘキ財産中消却未済ノモノハ總
テ長期ニ亘ル消却ヲ以テ計算賠償
セシムルコトヲ第一案トシ前記ノ
率ヲ用ユルモノヲ第二案トス何レ
モ容レラレサレハ原案ノ五年ヲ十
ケ年トスルコト

(九)、當方追加提案

政府ハ契約效力發生ト同時ニ作業
繼續ノ現狀ノ儘當該企業ヲ利権者
ノ經營ニ委スルコト
第十一條ニヨリ引渡サルヘキ財産
ト雖引渡終了ニ至ル迄之ヲ使用シ
得ルコト

外務省

MT 171037Z 187

調印後一ケ年ハ現ニ作業ヲ繼續シ
居ルモノニ引續キ作業繼續ヲ委任
シ得ルコトヲ要求ス

(十) 結論

留保問題ノ各個ヲ研究スルニ所有
繼問題ヲ對政府間ノ交渉ニ譲リタ
ル今日國防上ヨリ見タル買上問題
ヲ除キ結局
新會社ノ収益的經營力可能ナリヤ
否ヤノ點ニ依リ最後ノ決心ヲ定ム
ルノ外ナシ
右ニ對スル暗礁ニアリ
一財産使用料ニ付先方今尙言明セ
サル所ナルコト
一平方露里ノ試掘區域ハ將來
如何ナルモノヲ先方カ指定スル
カ全然不明ナルコト
十六日夜最終會議ヲ開ク豫定ナル
カ先方ハ甚タ強硬ニシテ一部多少
ノ讓歩ヲ見ルヘキモ大部分ハ最後

是以上ノ條件ニテハ契約締結期日
迄ニ解決困難カト豫測セラレ又此
際頓挫セハ後日更ニ有利ナル展開
ヲ見難キヤニ思考セラレ

銀上以外
下ヲ以テ
一対案
一方係
ルニ
レ

迄主張ヲ狂ケサルヤモ知レズ其ノ
時ノ覺悟ハ今ヨリ定メ置カサルヘ
カラス

(E 號用紙)

外務省

外務省

(E 號用紙)



由寄者
送る者
お金角

大急

要旨

次官

大臣

勝

歐米局長

在露

田中大使

第三七八號

莫斯科利權交渉ニ關スル件

第一課

幣原大臣

少輔

電送第七四三號
昭和十四年十一月廿二日

貴電第四八〇號稟申ニ付テハ關係官廳トモ協議シ篤ト考慮ヲ加ヘタ
リ此際契約ノ成立ヲ期スルコトハ大局ニ於テ得策トスルコトハ貴見
通りナルカ當業者側ニ於テモ探慮上其他ノ點ヨリ見テ相當ノ注文ア
リ直ニ多大ノ讓歩ヲナスハ困難ナル狀況ニ在リ就テハ貴官ハ交渉ヲ
成立セシムル方針ノ下ニ左記趣旨ニテ取計ハレタシ

次頁へワバリ

外務省

MT 171037ズ 190

(一) 財産權及使用料ノ問題中

(イ) 現存財産ニ就テハ往電第三三一號ノ通りニシテ日本側ノ施設セ
ルモノニ對シテ我所有權ヲ否認セントスル先方ノ主張ハ俄ニ主
肯シ難シ依テ先方ニ對シ貴官ヨリモ極力我主張ノ貫徹ニ努メラ
ルルコトヲ希望スル次第ナルモ絶對ニ先方カ之ヲ容認セサル場
合ニハ貴見ノ通り暫ク將來ノ懸案トナスコトモ致方ナシ但シ其
場合ト雖モ所謂先方ノ財産ノ何物タルヤヲ承知シ置クノ必要ア
ルハ往電第三一七號ノ通りナルヲ以テ現存露國固有財産ト稱ス
ルモノノ範圍及評價額ヲ明示セシムルコトヲ要ス
(ロ) 將來輸入設備スル財産ニ就テハ財産所有權カ我方ニ在ルヘキハ
往電第三〇八號ノ通りニシテ勞農側ノ之ニ對スル意見ハ之ヲ突

(已 號用紙)

外務省

MT 171037ズ 191

1-1968

0129

止メ報告アル様取計ハレタキカ兎ニ角貴官ヨリモ我方ノ主張ヲ
申入レラレタル上先方ノ主張ニシテ相當ノ根據アル場合ニハ第
四條ハ之カ存置ニ同意セラレテ可ナリ

(E 號用紙)

外務省

MT 171037乙

192

(二) 戰時事變ニ際シ先方ニ或ル程度ノ買上權ヲ認ムルハ已ムヲ得サル
所ナラムモ戰時先方ノ優先買上權ヲ認ムルコトハ北京條約ノ規定
及精神ニ違背スルモノナリ依テ貴官ヨリモ政府ニ對シテ右趣旨ヲ
以テ篤ト交渉セラレタキカ萬々止ムヲ得サル場合ニハ自國用ニ限
リ或程度ノ買上ヲ認ムルコトトシ(一)年産額二十萬屯以内ノ場合ニ
就テハ貴電第四〇八號所載中里藥第三案ニヨリ(二)年産額二十萬屯
以上ノ場合ハ報償ヲ合算シ同産額ノ三割ヲ超ヘサル範圍内ニテ成
ルヘク我方ニ有利ナル様買上率ヲ取極メシメラレ差支ナシ但シ右
約定ヲナス場合ニハ之ヲ契約ノ本文ニ加ヘス別箇ノ契約トナシタ
キ希望ナリ

(E 號用紙)

外務省

MT 171037ス

193

1-1968

0:30

(三) 地域ノ問題ニ付テハ未延ヨリ中里宛電報ノ趣旨ニ依リ今一應交渉セシムル様致サレタシ

(四) 報償率、課税及公課ノ問題ニ付テモ右ニ同シ

(五) 前顯貴電末段ニ付テハ双方共可成所定期間内ニ成立スルコトヲ希望スル次第ナルカ若シ其一方カ話合纏リタル場合ニ他ノ一方カ未成立ナル理由ヲ以テ之カ調印ヲ差控エシムル必要ナシ但シ早目ニ話合纏リタル分ノ調印ヲ所定期日ノ切迫スル迄引延ハスコトハ適宜取計ハレ差支ナシ

(終)

外務省

MT 1710372

194

梅大



第ニ七六号
労働部郵政廳ハ「オハト」郵便聯絡ヲ当分
尼市海岸、尼港、哈府及浦汐經由ニテ實施スル
事トナシ「オハ」郵便局ヲ開設スル由、郵便發
送ハ月參回ノ豫定ナリト、

幣原外務大臣

鈴木總領事代理

11398 (暗)

本省着 函港發

大正四年五月廿七日石七四五

函一六

MT 171037Z

195

1-1968

0132

11439 暗58

哈府發
本省着

大正十四年十一月三日午後一〇時

幣原外務大臣

二瓶總領事

回覽

第五九號

林業組合ヨリ梅浦へ左通り

貴電見タ

工場能力、晝半分、夜半分、合計全稼、消化
得ルモノ、結局全稼二分一、消化ニ得ルモノ、
建テル可シ

工場建設ハ是非三ヶ年同ニ完成ヒョト先

利権



方要求シタルニ對シ當方ハ三ヶ年目ニ着手六
年目ニ完成スベシト漸ク妥協シタルニ故ニ兩期
同規定ノ必要生レリ
調印ハ二十日面談、討議ヒ互主改ノ接近
シタル最後條件ヲ基本トシ相互絶對ニ同意
出來又簡所ハ彼我條件相方列記ニ莫
斯科ニ於テ最後ノ決定ヲ仰グ條件、下ニ來
ル三五日、晚調印スルニシテ御承認請フ
先方最後條件四ニ項目受取リテ款讀中
明日電

終リ

MT 1710372

197

MT 1710372

196

1-1968

0133

電信課長

大臣

次官

亞細亞
歐米
通商
條約
人情
會計
會社
文書
對支文化

門
類
項
號

對支文化
文書
會計
會社
人情
報事
條約
通商

件名
綴込名

莫斯神委
本省着
三〇日
三〇日

幣原外務大臣

大正四年三月四日 記録係 櫻井

第四九九部 一三 (世口後)

中里より来た

十九日 東京電

既同油田ハ十六日、合議ニ於テ大特當方
ノ希望、近キモノニテ決定

試掘区域選定權者及試掘区ノ複數
ナルモノ、同シテハ當初ノ主張ヲ繰返シ結
局先方ハ我が試掘、結果ヲ利用セント

名手
圓山

MT 1710372

スルモノナルヲ以テ無價値ノ所ヲ與フルコト
ト若クモんモ選定權者當方ニアリトノ主張
ニ對シテハ依然一定容認セズ免角先方
ヲ勸考スベシトテ留保トナリ、就テハ今
後如何ニ成リ行クヤ不明ナルモ場合ニ依
リテハ條約ノ解釋論トテ政府召ノ交
渉トナルベシ

(三) 三年召鉄橋トテ收支計算ハ最即ノ
目福見者ノ建方ニ依リ且先方原案ノ
要求通りトシタル場合ノ計算ニシテ即チ
支出ノ増加ノシテ計上シ何事收入増加
ノ方面ニ手ヲ觸シザルモノナルヲ以テ假令

MT 1710372

電信課長(藤)

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

人情

會社

文書

對支文化

門類
項目
號

對支文化

岡田次郎

件名	
綴込名	

11454
暗
100
莫斯科
十月三十日午後三二
十一月二十二日午後四〇

幣
由中大使

五
第四九九號(三) (昨日)

大正四年十月四日 記録係接受
 (四) 報償率の條約の文面上總生産額に對
 する報償主義の當方ニテ容認せらるる今日
 致の方針(報償金納) 値段ヲ加州 原油標
 準値段ハスルコトヲ先方ニ認メシメ一方ニ於テ
 買上價格ヲ其レ以上有利ナルモノトスル貴毛
 一趣音ハ一応允テナルカ如キモ先方ヨリ見テ
 頗ル不公平ナル此ノ主張ヲ為スニ有力ナル證據

MT 1710372 202

見當ラズ

(六) 右ノ次第ニテ上述ノ如キ方針ヲ採ラサル以
 上ハ如何ノ先方ニ讓步セシムルモ貴毛ノ如クナル
 點ハズシテ其ノ結果ニ於テ望ミナシトセバ
 遂ニ決裂ノ外ニト認メ右ノ對立ノ意見返毛
 ヲ請フ但し返毛アル迄ニ會議ヲ中止セバ期
 限内ニ如何ニスルモ議了スル事能ハズ又貴
 毛ノ都合ノミニテ延期セラルコトモ困難ナルコト
 會議ハ此儘續行シ
 (七) 尚ホ先度ノ會議ニ於テ社成立迄北辰會
 ニ事業ヲ委託スト云フ貴方追加條款ニ付テ
 ハ未だ決定的ノ討議ヲ經カズ先方ノ容易

MT 1710372 203

©
U

同意セタル慶尤ヲ以テ場合ニ依リ現揮太ノ
事業ハ契約締結ト同時ニ會社創立委員
ノ名ニ改メタルヲ必要トスルニ至ルヤモ計ラレ
不今ヨリ其ノ時ノ場合ヲ豫想シ万異兼
ナキ様致サレ度ニ (終リ)

(五) 小巻 (電信課)

THE JAPAN POSTAL CORPORATION
204

MT 1710372

1-1968

0:30

No re mecaj o pamiu fuit utro speer, buona
 maiko egumeni tympu uer memoskencium hepnu,
 Upadimencu to longu nouis apud eum abuit, buona
 meoyag & 1.000 ut. hepni quej pag sedomik
 pasbu u conuersu, muth 40% qum ertu euenes
 lo hupstentime ouu pag sedomik pasbu
 hepaipitue ueuio kopymu anakte dau
 nysocue denu suozpau.

外 移 岩

MT 1710372 209

Ukayimial meoyad e gaud na indit sen
 meu, suoth & meume amon opora pag sedomik
 pasbuu duu su patomertu.

外 移 岩

MT 1710372 210

1-1968



十月十日 閣下 御手紙 拝見 承知 申上 存候 事 候 事
知事 中 一 様 へ

2. As regards any other established oil
deposits, in addition to those specified in the
said Memorandum of August 29th Japanese
materials will be likewise entitled to 40%.
With kind reference to new oil deposit which
may be established as a result of Japanese

MT 1710372 211

explorations, it is understood that Japanese
materials will be entitled to a 40% share
therefrom.

MT 1710372 212

外務省

1-1968

十月三日、外務省に於て、
日米交渉の進展に
関し、外務省の要請に
答へて、

2. The Government, Mr. U.S.A. R. also agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan for exploration fields in the Eastern coast of Northern Szechwan over an area of one thousand square meters during five years

MT 1710372 215

after which period the Government of the Union of S.S.R. agrees to grant to the said concerns the concession for the exploitation of 40% in areas of all the oil fields, which may be established as a result of such Japanese exploration in the above mentioned area of one thousand square meters.

MT 1710372 216

外務省

1-1968

The Government of the U.S.A. agrees to grant to Japan
 concerns recommended by the Government of Japan for
 explanation, during ten years, fields on the coast
 coast of Northern Sakhalin over an area of

外務省

MT 1710372

土月十日、合議地に於て、使別所提議の各案、
 別所提議の第一、別所提議の石油田、
 一、第一案、二、面積、三、
 四千五百畝、
 此等石油田の概略的調査は、
 乃、第一、地域、
 此等石油田の概略的調査は、
 乃、第一、地域、
 此等石油田の概略的調査は、
 乃、第一、地域、

外務省

MT 1710372

1-1968

0144

1710372

トナリ
城多雨露向巻見ノ合時ノ見
本年十一月二十日
印

外
務
省

MT 1710372 223

1-1968

0147

無事

3

Handwritten notes and signatures in the right margin.

日露條約議定書乙第二條試掘地域ノ
決定方法ニ關スル件
議定書乙第二條ニ左ノ文言アリ

... Over an area of one thousand square meters to be selected within
one year after the conclusion.....

日本側ハ右ノ地域ハ數ヶ所ニシテ又其決定ハ日本ノ自由ナリト解シ
居ルニ對シ露國側ハ右地域ヲ一ヶ所トシ又其ノ決定權ハ露國側ノ有
スル所トナシ居ルカ如シ

今北京交渉關係書類ニ就キ詳細研究スルニ第一問ニ關シテハ之ヲ解
決スヘキ材料殆ントナケレトモ第二問ニ關シテハ右規定成立ニ至ル
迄ノ經過ヲ閱シテ其間ノ徑緯ヲ明ニスルコトヲ得ヘシ而シテ第二問

已號用紙

外務省

MT 1710372

224

已號用紙

ニシテ若シ露國側ヲ納得セシメ得タリトセハ第一問ニ關シテハ第一問
ノ解釋ト本條設定ノ精神トヲ參酌シ解決探斯容易ナルヘシト思考ス
北京交渉中本件規定成立ニ至レル經過ヲ述フレハ左ノ如シ
北京交渉中

議定書乙第二條ニ使用セラレタル意義ニ於ケル試掘權ノ許與ハ當初
日本ノ提案中ニ無之交渉第三十五回(天正十三年九月卅日)ノ會議ニ
於テ「カラハン」カ油田地域問題解決試案トシテ

「日本側現業調書記載ノ油田ノ二割ヲ提供シ其時調査未着手ノ土地
一千又ハ二千平方露里ノ地域内ニ於テ試掘調査ノ權利ヲ與フ」趣旨
ニ言及シタルニ初マル (原文ナシ)

第四十一回(十月二十七日)會議ニ於ケル芳澤公使提案第三條左ノ
如シ
5. The Government of the U.S.S.R. also agrees to grant to Japanese concerns

外務省

MT 1710372

225

1-1968

0148

(日 號 用 紙)

recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of 60% in area, of all the other established oil fields in addition to those mentioned in the said Memorandum as well as of all the oil fields which may be established in future as a result of Japanese exploration in Northern Sakhalien.

第四十三回 (十月卅日) 會 ^隊ニ於ケル露國側對案中議定書乙第二條 左ノ如シ

2. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics also agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan for exploration fields on the Eastern coast of Northern Sakhalien over an area of one thousand square versts during five years, after which period the Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to the said concerns the concession for the exploitation of 40% in area of all the oil fields which may be established as a result of such Japanese exploration in the above mentioned area of one thousand

外 務 省

MT 1710372 226

(日 號 用 紙)

square versts.

之ニ對シ芳澤公使ハ次回 (十一月十日) 會議ニ於テ左ノ通り述ヘタ
リ
議定書B第二別 ^條ニ許與セラルヘキ試掘油田ニ付テハ先般ノ貴方案
ニハ面積ヲ限定シ居ラレサルニ拘ラス此際更ニ一千平方露里ニ限
定セラルルハ日本政府トシテハ甚々意外トスル所ナリ然レトモ貴
方ニ於テ利權契約成立後一箇年内ニ日本當業者ニ於テ一千平方露
里ノ地域ヲ撰定シ十箇年間ニ調査試掘ヲ爲スノ權利ヲ認ムルニ於
テハ貴方提案ニ同意スルコトトスヘシ但シ調査ノ上發見確定セル
油田ノ分割割合ハ我方原案通り六割トスルコトト致シ度シ

外 務 省

MT 1710372 227

1-1968

(已 號 用 紙)

次テ芳澤公使ハ日本側對案ヲ手交セリ其中第二條左ノ如シ
2. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to Grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan for exploration, during ten years, fields on the Eastern coast of Northern Sakhalien over an area of one thousand square versts which shall be determined by the Japanese concerns within one year after coming into force of the Concession Contract. The Government of the Union also agrees to Grant to the said concerns the concession for the exploitation of 60% in area of all the oil fields which may be established as a result of such Japanese exploration in the above mentioned area of one thousand square versts.

第四十四回(十一月十一日)會議ニ於テ「カラハン」ハ左ノ通述ヘ
タリ

十年間ニ亘リ一千平方露里ノ試掘權ヲ要求スル點ニ付テハ莫斯科ニ

外 務 省

MT 1710372

228

(已 號 用 紙)

報告スベク此點ハ云ハバ五十歩、百歩ナルヲ以テ五年乃至十年トセ
ハ莫斯科ニ於テモ異存ナカルベシ但日本側ノ發見セル產油地ノ六割
ノ點ハ矢張り^{四割}割トスルヲ要ス
斯クシテ兩國代表ノ間ニ意見ノ合致ヲ見タルモノニシテ而カモ「カ
ラハン」ニシテ其約ノ如ク本國政府ニ報告シタリトセハ其後先方ヨ
リ何等ノ提案ヲ見サリシニ鑑ミ本件論點ノ關スル限り兩國間ニ議了
ヲ見タルモノト云フヘシ

其後第四十六回(十二月二十七日)會議ニ於テ芳澤公使ヨリ帝國側
妥協案ヲ提出シタルカ右ハ主トシテ他ノ諸問題ニ關スル兩國ノ主張
中妥協點ヲ發見セントシタルニ出タルモノニシテ議定書乙第二條ノ
關スル限りハ試掘ノ結果日本側ノ獲得スヘキ割合^{試掘期間五年乃至十年トシテ}ヲ^{試掘}割ト^{試掘}見

外 務 省

MT 1710372

229

1-1968

0150

(已 服用 紙)

タルモ本件論點ニ對シテハ新ニ觸レタル處全然ナシ然ルニ其文言ハ
前述ノモノヲ變シテ左ノ通りトナセリ

2. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics also agrees
to authorize Japanese concerns recommended by the Government of Japan to
prospect oil fields, for a period of from five to ten years, on the eastern
coast of Northern Sakhalin over an area of one thousand square versts to
be selected within one year after the conclusion of the Concession Contracts
and in case oil fields shall have been established in consequence of such
prospecting by the Japanese, the concession for the exploitation of 50%
in area, of the oil fields so established shall be granted to the Japanese.

即右ノ變更ハ何等内容ト關係ナク實質上既ニ議了セラレタル所ヲ案
文起草ニ際シ用字上新ナル文言ヲ使用シタルニ過キスト紛レバ(レ
而シテ右ハ確定案トナレリ

外務省

MT 1710372

230

1-1968

051

電信課長 藤村

大臣

次官 幣

亞細亞

歐米

幣

門類項號

通條 人情 會人 文書 對支文化

件名
綴込名

11/15 (日) 本省着大正十四年 11月24日 15

田中大使

第五一號 (廿三日前)

大正十四年三月四日 記録係 藤

川上ヨリ左ノ通り

薩哈連利権事業ハ當地着以來
 小生力更ニ考究シタル処ニコレハ福種ノ
 不利ニ非ズ、為本邦貿易トラスト思
 ハル、ノイナラス、利権交渉ニ於ケル、露路國政
 府ノ意向ハ、対日政策上及其他ノ關係
 上、北京条約ニ反セサル範圍内ニ於テ

MT 1710372 231

不配布

能ク限リ露國ニ有利ナル条件ヲ以テ

利権ヲ許シ、セントスルモノ、如ク而ニ其

主張ハ、頗ル強硬ニ故、兩代表ノ非常

ニ努力力ニモ不拘、予期ノ如キ有利ナル

契約ノ締結ハ、到底不可能ナルノ事

業ク前途ハ、一屬困難ヲ加フルモノト予

想セラル、元來、利権ハ、國交ノ復旧

外、北京条約唯一ノ收穫ニシテ、將來ニ

於テ、經濟的提携ノ骨子トシ、ノミナス

一面、國民一般ハ、之ヲ以テ、危港事件、賠

償ノ責、實ヲ有スルモノト、解シ、且、石、個

利権ハ、我、燃料政策上ヨリ、見ルニ、今日ニ

MT 1710372 232

1-1968

0:52

アリテ其收益的状态如何ニ不拘
之カ獲得ヲ必要トスル事万人ノ首肯
スル処又石炭ニ付テハ我國埋蔵炭量
ノ前途ヲ考慮セバ斯ノ如キ炭田ノ獲
得ハ又緊急欠ク一カニナル事明瞭ナリ
サレハ我政府トシテモ日露視善ノ為
ニモ亦対内政策上ニモ利権契約ヲ固
滿ニ成立セシメ北京条約ヲシテ有終
美ヲ備サレタル要アルモノト思召セラル
而シテハ利権事業ハ兩國共前速ニ通
何レモ国家的事業ニ属シ然レ其經營
極メテ困難ナル一キニ付契約締結上

MT | 171G372 233

我政府ハ宜シク高ノ方法ニ依リ
之ニ対シ相當ノ援助ヲ與ヘ事業ヲ成
立シ可能トラシムル事トシ國家百年ノ
大計ヲ樹立スルノ必要アルモノト確信セ
サルヲ得ス
尚今日日近ノ交渉經過ニ徴スルニ本契約
ノ締結ヲ更ニ延期スルトスルニ將來以
以上ノ有利ニ条件ニテ意見ノ一致ヲ見
ル事歟ル困難ナルニシト思考ス
右身見概要御收取ヲ得ハ光榮
ノ至ナリ。

幣子も總理大臣陸海軍大臣大花司法
大臣閣下及末延ギ一印習者下。一紙リ。

MT | 1710372 234

1-1968

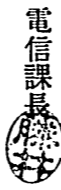
0:53

門
類
項
號

對支文化 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

大臣
次官
書

電信課長



五

11508 暗 23 莫斯科 省着 大正四年十月三日前三五

幣原外務大臣 田中大使

第五四号(二十言後卷) 往電 第五号(号二肉)

大正四年十月四日 記録係受

川上、意見ハ本使ヲ賛成シタルニ非ス川上ニ對シ經
営困難ナル理由ノ数字的基礎ヲ求メタルモ單ニ豫期
ニ及スト云フ、外的確、論據ナシ右御含ニ込

件名
綴込名

MT 1710372

236

門
類
項
號

對支文化 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

大臣
次官
書

電信課長



五

11516 (暗) 19 莫斯科 省着 大正四年十月廿四日前三五

幣原外務大臣 田中大使

第五〇二号(ロ三ロ二則) 大正四年十月四日 記録係受

中里ヨリ 未送
廿一日 省着 中(七)ノ(会社創立主
員)ハ大使ヨリ 露國政府宛照会云状
ニ(北薩哈連)石油企業 組合トアル協
二付右ニ訂立セラレタリ

(続)

件名
綴込名

MT 1710372

235

協定を元と
する

左
久

局長

第一課

海軍

海軍

海軍

中里代表ヨリ末延ヘノ電報ニ對スル所見

一、既開油田ニ就テハ當方ノ希望ニ近キモノニ決定セリトノ事ナレハ本件ニ關シテハ別ニ所見ナシ

二、未開試掘地ノ復數ナル事及試掘地撰定權者カ日本側ナル事ハ條約ノ解釋上ヨリモ明白ニ付此點ニ關シテ代表ト先方トノ間ニ意見如何ニスルモ一致セサルカ如キ事アレハ我政府ヨリ此點充分強硬ニ主張ヲ要スルモノト認ム

三、「會社成立後一兩年間ノ缺損ヲ目シテ收益的經營不可能ナリトノ議論ハ北京條約第七條ヲニ取ル何等ノ理由ナシトノ先方ノ主張ハ議論トシテハ尤モ成可ク之ニ對シ我方トシテ有力ナル反駁論ヲ見出ス事困難ナルヘシ

只初期ノ缺損カ後來ノ幾年間ニ優ニ取返シ得ルヤヲ計算シ其ノ程度カ普通商業トシテ非常ニ苦痛ナル場合ニハ條約第七條ヲ適用ニ探ル事モ差支ナシト認ム此等ハ當業者カ實際計算ヲ爲シタル上ニア

邦文タイプライナー用紙

MT 1710372 237

海軍

ラサレハ當局トシテモ所見ヲ建テ難シ

四、報酬金納ノ場合先方ヘ納附スルモノト先方ヘ賣渡スモノトヲ同一ノ標準ニ置ク可キ事ハ議論トシテ尤モニシテ我方會社側ノ主張スルカ如キ報償金ト賣渡代償ノ基礎標準ヲ別々ニスルヲ要ストノ議論ハ無理ナラン

六、第三項ノ理由ニヨリ會社萬一不成立トナルカ如キ事アレハ政府ニ於テ相當ノ保護的措置ヲ採ルノ必要モアル可シ

七、異議ナシ

「終」

邦文タイプライナー用紙

MT 1710372 238

1-1968

0:55

21

秋 大 方 七 友 米 局 長 印

電信課長 職中

米局長 印
未延ヨリ中里へ
二十一日發貴電見タ
數ヶ月ニ涉ル彼我交渉ノ狀況ヨリ判断シ貴下ニ於テ協定成立ノ上圖
滿ニ事業ヲ遂行シ得ヘント認メラレ且會社發起人トシテ株式募集ノ
際公表スヘキ二三年間ノ目論見書ニ添付スヘキ收支ノ計算カ株主ヲ
「アットラクト」スルコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニ付キ與村氏ノ意見モ
徴セラレタル上其見込確實ナリト認メラルニ於テハ利權契約ニ調印
セラレ然ルヘク然ラサル場合ニハ其詳細ヲ大使ニ申出テラルルト同

天報 第一課 印

(已 號 用 紙)

外 務 省

MT 1710372 239

時ニ當方ニ最後ノ指揮ヲ仰カレタシ

2頁(送り)

(已 號 用 紙)

外 務 省

MT 1710372 240

1-1968

0:56

附 言

(一) 現存財産ニツキ北辰會所有ノ財産ヲモ所關國有財産ニ包含セシムルモノナリトセハ當業者トシテ直接重大關係ヲ有スル義ナルニ付右ヲ包含スルヤ否ヤハ總ト先方ニ榮キ留ノラレ我方從來ノ主張ヲ明ニシ置カレタシ

(二) 試掘地域選定權問題ニ付テハ日本側ニ於テ地域ヲ選定スルモ該國側ニ於テ正當ノ理由アル場合ニハ其權之ヲ承認セサル可ラサル次第ニハ非サルカ故ニ日本側ニテ之ヲ選定ストスルモ該國側トシテ何等差支アルヘキ筋合ニ非スト解セラル若シ之ニ反シ該國政府ニ於テ日本側ノ調査ノ結果ヲ無視シ任ニ地域ヲ指定シテ其ノ試掘ヲ日本側ニ頼ムトスルハ其ノ無理ナルコト明瞭ナリ就テハ右ノ次

(巨 號 用 紙)

外 務 省

MT 1710372 241

(巨 號 用 紙)

第ヲ基ト説明シ我方ノ主張ニ同意セシムル様勢メラレタシ

(三) 又日本側ニテ調査ノ結果出油ノ見込アリトシテ選定スル場所ハ各地ニ散在シ必スシモ選掘面積内ニ包括スルヲ得サル義ニシテ若シ一平方釐里ヲ選掘セル一地域ニ限定セムトセハ當然出油ノ見込ナキ場所ヲ包含スルコトトナリカカル場所ヲ試掘スルカ銀キハ無意疎トナリ試掘地域ヲ限定セムトスル理由ニ合致セサルニ付右ノ趣旨ヲ篤ト説明ノ上我方主張ノ貫徹ニ努メラレタシ
(四) 尤モ調印前前記二項所載ノ問題カ決定ヲ見サル場合ニハ調印後直ニ出中大使ノ交渉ト^相俟テ前記主張ニヨリ之カ解決ニ努メラルヘシ

印 報 金 幣 ノ 場 合 ト 上 ノ 場 合 ト 同 一 様 準 據 料 爲 ス コ ト ハ 詳 詳

外 務 省

MT 1710372 242

1-1968

日 號 用 紙

(四) 報償金納ノ場合ノ外買上ノ場合ニ其ノ標準値段ヲ世界市場最モ價
格ノ低廉ナル加州山元原油ニ取ルハ不利益ナルニ依リ止ムヲ得サレ
ハ買上ノ場合及金納ノ場合トモ會社力其ノ石油ヲ内地(横濱)ニ輸
入シ之ヲ他人ニ賣渡シテ得ヘキ代金即チ内地市價ヨリ還繳保險等ノ
諸費ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ標準ト爲スコトトセラレ差支ナシ
尚亦既半契中(五)トシ有ハ数字ノ附テ誤リカト存スルニ付

外 務 省

MT

1710372

243

1-1968

0:58

貴方より
石田より
貴方より

秘

オミハハ
末延ヨリ中里へ

二十一日發貨電見タ

數ヶ月ニ渉ル被我交渉ノ狀況ヨリ判断シ貴下ニ於テ協定成立ノ上
滿ニ事業ヲ遂行シ得ヘシト認メラレ且會社發起人トシテ株式募集ノ
際公表スヘキ二三年間ノ目論見書ニ添付スヘキ收支ノ計算カ算主テ
「アツトラクト」スルコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニ付キ與村氏ノ意見モ
徴セラレタル上其見込確實ナリト認メラルニ於テハ利權契約ニ關
セラレ然ルヘク然ラサル場合ニハ其詳細ヲ大使ニ申出テラルト同

十日 三島 田中 氏 宛 電 報

後 田中 氏

時ニ當方ニ最後ノ指組ヲ押カレタシ

外務省

MT 1710372

245

(巨號用紙)

外務省

MT 1710372

244

(巨號用紙)

1-1968

0:59

附 言

(一) 現存財産ニツキ北辰會所有ノ財産ヲモ所屬歸國有財産ニ包含セシムルモノナリトセハ富樂者トシテ直接重大關係ヲ有スル義ナルニ付右ヲ包含スルヤ否ヤハ篤ト先方ニ突キ留メラレ我方從來ノ主張ヲ明ニシ置カレタシ

(二) 試掘地域選定問題ニ付テハ日本側ニ於テ地域ヲ選定スルモ露國側ニ於テ正當ノ理由アル場合ニハ其選之ヲ承認セサル可ラサル次第ニハ非サルカ故ニ日本側ニテ之ヲ選定ストスルモ露國側トシテ何等差支アルヘキ筋合ニ非スト解セラル若シ之ニ反シ露國政府ニ於テ日本側ノ調査ノ結果ヲ無視シ任意ニ地域ヲ指定シテ其ノ試掘ヲ日本側ニ強ムトスルハ其ノ無理ナルコト明瞭ナリ就テハ右ノ次

(巨 號 用 紙)

MT 1710372

外 務 省

(巨 號 用 紙)

第ヲ篤ト說明シ我方ノ主張ニ同意セシムル機勢メラレタシ

(三) 又日本側ニテ調査ノ結果出油ノ見込アリトシテ選定スル場所ハ各地ニ散在シ必スシモ邊境面積内ニ包含スルヲ得サル義ニシテ若シ一平方露里ヲ選定セル一區域ニ限定セムトセハ當然出油ノ見込ナキ場所ヲ包含スルコトトナリカカル場所ヲ試掘スルカ如キハ無意味トナリ試掘區域ヲ設定セムトスル旨ニ各致セサルニ付右ノ趣旨ヲ篤ト說明ノ上我方主張ノ貫徹ニ努メラレタシ
(四) 尤モ露國前所記二項所載ノ問題カ決定ヲ見サル場合ニハ露印校直ニ田中大使ノ交渉トナル俟テ前記主張ニヨリ之カ解決ニ努メラルヘシ

MT 1710372

外 務 省

印報信金納ノ場合ト買上ノ場合トナ同一標準價格ト爲スコトハ經濟

(已 號用紙)

(四) 報償金納ノ場合ノ外買上ノ場合ニ其ノ標準値段ヲ世界市場最モ價
格ノ低廉ナル加州山元原油ニ取ルハ不利益ナルニ依リ止ムヲ得サレ
ハ買上ノ場合及金納ノ場合トモ會社カ其ノ石油ヲ内地(横濱)ニ輸
入シ之ヲ他人ニ賣渡シテ得ヘキ代金即チ内地市價ヨリ選級保險等ノ
諸費ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ標準ト爲スコトトセラレ差支ナシ
カキ野中(五)オレハハ奴字ノ附ケ誤リカトナスルニカク

外 務 省

MT

1710372

248

1-1968

0:61

電 信 案	タシ	使ニ於テ交渉セラレ成ルヘク速ニ解決スル様致度ニ付右様取計ハレ	所有權問題モ解決セサル場合ニハ之ト一括シ一調印 ^後 引續キ直ニ貴	印前ニ本件交渉纏マラサル場合ニハ條約ノ解釋問題トシテ(若シ ^後)	所載ノ通 ^テ ナルニ付本 ^件 ヲ妥結シ得ヘシト思考スルモ萬一調 ^節	尙一千平露里ノ試掘區域ニ關スル諸問題ニ就テハ ^別 電第三八一號(ニ)	(原議用紙乙) 圓積
-------------	----	--------------------------------	---	--	--	---	------------

MT 1710372 250

電話第七五〇號
大正十四年十一月廿五日 四時五分發

電 信 案	件 利權交渉ニ關スル件	宛 在露 田中 大使	發 幣 原 大臣	主 管 歐米局長 任 主 歐米局長 (起草大正十四年十一月廿五日)	名 込 級 送 達 印	暗 第三八二號 (別電第三八一號)	貴電第四九九號中里發末延宛電報ニ關 ^ル 營業者側 ^ノ 別電第三八一號	ノ通 ^ル 間答 ^ナ タル ^ハ 御承知 ^ノ 通ナルカ右ハ營業者トシテハ從來ノ	主張ヲ ^大 充 ^テ 分 ^ク 緩和シタル次第ナレハ之ヲ以テ先方ニ交渉セシメ利權契	約ヲ妥結ニ導ク様貴使ニ於テモ盡力アリタシ	外 務 省
-------------	----------------	---------------	-------------	--	----------------	-------------------------	--	---	--	----------------------	-------------

MT 1710372 249

手
取
付
印

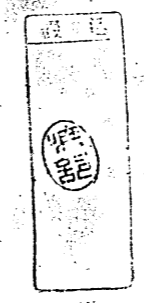
1-1968

0162

本署着ス丁四年一月廿四日前三五

田中大臣

第五〇二號



中里ヨリ未延(一)左ノ由
廿一日若毛中(七)ノ(一)会社創立委員
員ハ大使ヨリ露國政府免照人云状
ニ(北薩哈連)石川企業組合トアル
付右ニ訂立セラルル
事

MT

1710372

253

改一

1-1968

0164

23

安

大正十四年十一月 日
外務次官宛

外務次官

莫斯科ニ於ケル石油石炭利權交渉ニ關スル件
歐一機密合第六〇二號第六〇六號及第六〇七號ヲ以テ貴省歐米局長
ヨリ常省軍需局長宛送付相成候田中大使發外務大臣宛電報ニ對スル
常省ノ意見別紙ノ通ニ付之ニ據リ可然御取計相成度
右回答旁照會ス

日 發 用 紙

外務省

MT 1710372 254

今日迄ノ利權交渉ノ經過ヨリ觀ルニ假令交渉ヲ後日ニ延期スルモ今
次ノ交渉程度以上ニ我方ニ有利ニ解決セラルヘシトハ信シ難ク若シ
將來日露兩國間ノ國交一層親善ノ域ニ達スル事アラハ其ノ際本利權
契約改訂ノ機會モ生ス可ク何レノ點ヨリ考察スルモ此ノ際契約ノ成
立ヲ期スルヲ以テ大局ニ於テ得策トス可シ而シテ契約訂結ニ際シ左
記事項ニ關シ我方ノ正常ナル主張ノ達成ヲ期スルノ要アリト認ム
一 財産所有權及其ノ使用料

日 發 用 紙

(4) 北樺太油田地ニ現存スル財産ニ付先方ハ如何ナルモノカ彼ノ所
有ニ屬スルヤヲ明示セサルモ我「占領中ノ措置カ保障占領ノ效
果トシテ當然ナシ得ヘキ範圍ヲ逸脱セリ」ト主張スル點ヨリ考
察スレハ之ニ依リテ日本側ノ施設セルモノニ對シ我ノ所有權ヲ

外務省

MT 1710372 255

1-1968

0165

否認セントスルモノノ如ク此ノ點當方トシテハ誠ニ首肯シ難キ所ナリ元來本件ハ既ニ北京交渉ニ於テ論議セラレタルモノニ係リ北樺太軍事占領中石油石炭ニ關スル我方ノ措置ハ條約附屬文トシテ「千九百二十四年八月二十九日日本國代表者ニ依リ聯邦ノ代表者ニ交附セラレタル覺書」ニ明記セラレ先方ノ承認シタル所ニシテ今再ヒ之ヲ論議ス可キ性質ノモノニ非ルナリ又北樺太ニ於ケル石油企業ニ直接利用シ得ル現存財産ノ大部ハ我政府ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ現存財産ノ所有權ニ關シテハ追テ我政府ヨリ先方ニ對シ嚴重ニ交渉シ以テ我正當ナル所有權ヲ認メシムルコトトシ唯財産ノ使用料ニ就テハ利權營業代表者ヲシテ交渉セシムル事可然但シ此ノ際所謂先方ノ財産ノ何物タル

(目録用紙)

外務省

MT 1710372

256

ヤハ承知シ置クヲ安全トスヘシ

(ロ) 將來輸入新設スル財産ノ所有權カ我ニ在ル事明白ナルハ既ニ外務大臣ヨリ田中大使ニ訓電セラレタル通ナルモ本財産ハ利權會社ノ施設スル所ニシテ政府ト直接ノ關係ナキヲ以テ會社側ノ意嚮ニ據リ此ノ種財産所有權問題ヲ決定シ可然

ニ買上權

戰時事變ニ際シテハ先方ニ或ル程度ノ買上權ヲ認ムルハ已ヲ得サル所ナラムモ常時先方ノ優先買上權ヲ認ムルハ北京條約ノ根本主旨ニ違反スルモノト云フヘシ然レトモ若シ本問題ノ爲メニ契約ノ成立ヲ見サルカ如キ場合アリトセハ主文ノ趣旨ヲ達成シ難キヲ以テ斯ル場合ニハ報效油量ヲ加算シ露國國民以外ニ販賣セサルヲ條

(目録用紙)

外務省

MT 1710372

257

1-1968

0:66

地域

件トシテ産油額ニ應シ全産額ノ三割程度迄ハ先方ノ買上權ヲ認ム
ルモ致方無之カルヘシ但シ爲シ得レハ本件ハ契約本文ニ入レス別
簡ノ形式ニ於テ契約シ置クヲ可トス又此ノ場合ニ於ケル先方ニ對
スル賣渡價格ハ日本側ニ對スル賣渡價格ト同値ナラシムルノ要ア
ルハ勿論ナリ露國側ノミ廉價ナル石油ノ供給ヲ受ケ日本側ハ之ニ
對シ高價格ヲ支拂ハサルヘカラサルカ如キハ理由ナシ

外務省

目録用紙

MT 1710372 258

報償率

ル關係アルニ到ルヘキヲ以テ政府ニ於テモ極力我方ノ主張ヲ支持
スルノ要アリ即チ既開油田ニ在リテハ油田區域ノ決定及油田ノ公
平ナル分割法ニ關シ又試掘地域ニ在リテハ議定書乙第二項ニ契約
締結後一ケ年内ニ之ヲ撰定スル事ニ協定シアルカ故ニ此際其ノ地
域ノ具體的決定ハ先方トシテモ議論アルヘキニ付試掘地域ノ撰定
權及地域確定ニ關シ各々其ノ原則ノミニテモ此際確定シ置クヲ必
要ナリト認ム

外務省

MT 1710372 259

1-1968

ル初度ノ犠牲ノ多大ナルヲ知悉セサルノ結果ナリ今日北辰會カ北
樺太ニ於テ相當ノ成功ヲ收メタルハ實ニ多大ノ初度投資アリタル
ニ依ルモノニシテ過去ニ於テ北樺太油田ニ投資セル「クレイ」「ソ
ートフ」第二「サガレン」其ノ他何レモ失敗ニ終リタルハ彼等ノ
資本過少ニシテ初度投資不足ナリシニ依ルモノナル事明白ナリ
前記利權會社ノ特殊負擔中帝國政府ノ權利ニ屬スル七十四萬圓ノ
如キハ何レモ現ニ事業經營ニ利用セラレツアル固定資本ニシテ
此ヲ度外視シテ全然特殊負擔ナキ會社トナスカ如キハ大ナル誤解
ニ出ルモノト謂フ可シ而シテ此ノ際特ニ問題ト爲ル點ハ北辰會ノ
礦業權ニ相當スル金額ナル可ランモノニ關シテハ當業者代表ヨリ
其ノ内容ヲ説明シ極力其ノ支出ノ必要ナリシ理由ヲ擧ケ先方ヲシ

日 說 用 紙

外 務 省

260

MT 1710372

テ礦業權ニ相當スル金高ヲ認知セシムルノ要アリ
實ニ本件ハ議定書乙第七項ニ規定シアル可償的經營ノ可能ナル範
圍ニ於ケル課税及制限ト關聯スル所ニシテ所謂特殊負擔額ニシテ
先方ノ認知スル額大ナレハ大ナル程課税ハ我ニ有利ナル次第ナル
ヲ以テ本件ハ特ニ重視スルノ要アリ又課税率ニ關シ先方ニテ國內
最惠待遇ヲ與ヘタリト云フモ此ノ課税率ニ從フ時ハ原油一噸ノ價
格ハ當方ニテ豫定セシ價格ヨリモ約四割強ヲ増加シ約三十六七圓
トナラサルヘカラス果シテ斯クノ如クンハ會社ノ經營ハ困難ナル
ヘク其ノ成立ヲ甚タ難澁ナラシムルニ到ルコトナキヤヲ保セス
英 勞働法ニ關シテハ石油關係モ成ル可ク石炭關係ト同一歩調ヲ採ル
ヲ可トス可シ

日 說 用 紙

外 務 省

261

MT 1710372

1-1968

0:58

目録川紙

六 「ツウエ」炭鑛

議定書乙第三項ニ殊ニ「ツウエ」地方ヲ我國常業ニ許與スル旨掲
記セル趣旨ハ日本側ノ切望ヲ先方ニ於テ認知セル結果ニシテ今日
ニ到リ「ウエルブルード」試掘鑛區ト關聯セシメ我方ノ特ニ重視
セル區域ヲ除外セムトスルカ如キ先方ノ態度ハ誠ニ遺憾トスル所
ニシテ露國側ノ不信ヲ鳴ラシ我政府トシテモ嚴重ニ抗議スルノ要
アル可シ

外務省

MT 1710372

262

1-1968

0:69

(イ) 現存財産ノ帰属問題ニ付テハ田中大使ノ意見ノ如ク之ヲ將來ノ懸案トシテ兩國政府間ノ交渉ニ残スコトシ假ニ使用料ニ付協定シ置クコトハ此ノ際止ムヲ得サルモノト認ムルモ右ハ本問題ニ対スル勞農側ノ意見カ兩國間ノ交渉ニ於テ認メザレタル場合ニ対スルモノナルコトヲ明瞭ニ留保スルト共ニ現存露國々有財産ト称スルモノノ範圍及其ノ評價額ヲ明示セシムルコトヲ要スルモノト認ム

尚ホ將來ノ交渉ニ於テカ(勞農側ノ主張ヲ認ムルカ如キコトトナルニ於テハ現存財産ノ一部ヲ我國ノ固有財産トシテ新設會社ニ引渡ケシムルコトヲ得サルニ至ルノミナラス北辰會ノ投資額全部ヲ新設會社ニ引渡ケシムルコトニ付テモ相當考慮ヲ要スルコトトナルヲ以テ其ノ場合ノ處置ニ関シテモ予メ政府部内ニ於テ方針ヲ確立シ置ク

右ノ意見ノ如ク
一 尚ア了ラズニモ
二 協定ニ付

(美濃半裁野紙) 圓籍

外務省

MT 1710372 263

コトヲ要スルモノト認ム

(四) 將來輸入設備スル財産ニ付テハ勞農側ノ主張ニシテ理論上相當ノ根據アルモノナルニ於テハ之ヲ認ムルハ止ムヲ得サル所ナルヘシ

二 勞農側ノ主張スル産油買上權ハ契約ノ成立ヲ期スル上ヨリ云ヒテ利権獲得ノ趣旨ニ及セサル範圍内ニ於テ之ヲ認ムルノ外ナルヘシ

三 未開油田ノ地域及其ノ選定方ニ付テハ田中大使ノ意見ノ如ク今回ノ契約ニ於テハ此ノ問題ニ觸レサルコトトシ、將來會社側ニ於テ政府ノ後援ヲ以テ主張スルノ外ナルヘシ

四 報償率課税及公課ニ付テモ或ル程度ニ於テ勞農側ノ要求ヲ認ムルハ止ムヲ得サルヘシ、然レ共之等ノ点ニ関スル勞農側ノ要求ヲ認ムルニ於テハ勞働法ノ關係、社會保險、固有財産使用料等ト相俟テ利権會社ノ事業經營ヲ非常ニ困難トシムヘク今後低利資金ノ融通等ニ依リ會社ヲ保護スルニアラサレハ事業ノ開

(美濃半裁野紙) 圓籍

外務省

MT 1710372 264

(美濃半裁野紙) 四折

始継続ヲナレ得ナルハキコトハ当然ヲ想セラル所ナラ以テ此ノ兵ニ付
テ予メ政府部内ニ於テ方針ヲ定メ置クコトヲ要スルモノト認ム

(了)

外務省

MT

171037Z

265

1-1968

文海

14/15 幕新神書
本省着 若中四年三月三日

帯原外務大臣 田中大使

第百九十九號

中里ヨリ来込

十月十九日 幕新神書
既開油田 今議 於テ大特音方

二二二
試掘 区域 權新 及 試掘 区ハ 複新
局 光方ハ 裁ガ 試掘 結果ヲ 利用セシト

MT 1710372 266

スルモノナルヲ以テ 懸價 値ノ 所ヲ 與フルコト
ト 著(先)モ 懸定 權者 方ニ アリトノ 懸張
ニ 對シテハ 依然 容認 七六 免ニ 角光方
テ 熟考 ムベシトヲ 函保 上リ 依リ 裁
後 如何ニ 行クヤ 不 明 免ニ 場合ニ 依
リテハ 條約ノ 解釋 補トシテ 政府 官ノ 意
揚トナルベシ

(三) 三年 算 缺 損トシ 收 入 計 算ハ 最 初ノ
目 福 見 者ノ 建 方ニ 依リ 且 光 方 原 案
要 求 通リトシ 場 合ノ 計 算ニ シテ 却
算 出ノ 増 加ノ 計 上ニ 何 算 収 入 増 加
ノ 方 面ニ 對シテ 觸 示 せんモノナルヲ以テ 裁

MT 1710372 267

課税使用料(社会保険、火災保険等)他
 別府問題(トナラス)ヲ全部免除セラル、
 且トスルモ高十四萬圓ノ欠損ナリ到底
 考重ノ趣旨、合致セシムルコト不能ナリ
 然レドモ若シ荷重ノ如ク趣旨ニ依リ假ニ
 初年度、既ノ振替額既夫一組ヲ増シ
 三年ノ新採油井ヲ増加スルトセバ費後、
 通算三年目文ノ計算ニテ家分ノ利
 益ヲ得ル得ルハ勝又合致成立後、
 一兩年々別々欠損トシテ、収益的経営
 不可能トスルハ、後述ノ此系標的等
 七條中、再ル何等ノ理由カニテ、
 却テトスルハ、
 不可
 不可

MT 1710372

新採油井
 既中討論ニ於テ是方、固ク取ララズ
 カザル事張リ
 不可
 不可

MT 1710372

1-1968

1145
略 100
莫斯科
第 六 志 年 十 月 二 日 后 四 〇

幣 理 外 務 大 臣
田 中 大 使

（四）報 廣 率 の 條 約 の 文 面 上 德 生 産 額 對
於 報 廣 主 義 の 需 方 二 方 容 認 せ ぬ 今 日
致 之 方 十 二 報 廣 全 納 値 段 ヲ 加 州 原 油 標
準 値 段 不 入 二 方 先 方 之 認 入 一 方 於 之
買 上 價 格 ヲ 算 上 有 利 上 之 認 入 一 方 於 之
一 趣 音 一 一 次 尤 モ ナ ル カ 如 キ 毛 花 豆 等
頗 ル 不 公 平 ナ ル 此 ノ 主 張 ヲ 為 ス 二 有 力 ナ 論 據
次 第 ニ テ 也 方 等

MT 1710372 270

見 當 ラ 不
（六）右ノ次第ニテ上述ノ如キ方針ヲ採ラサル以
上ノ如何ニ先方ニ讓歩セシムルモ貴意ノ如クナル
結果ニ至ル結果ニ至ル結果ニ至ル結果ニ至ル
遂ニ決裂ノ外ニト認ム者ニ對シテは意見
ヲ請フ但し逐電アル迄ニ會議ヲ中止セハ期
限内ニ如何ニスルモ議了スル事能ハズ又
方ノ都合ノミニテ延期セシムルニ困難ナル
會議ハ此儘續行
（七）幣 理 外 務 大 臣
二 事 業 委 托 人 以 外 之 者 追 加 條 款 會
議 決 定 的 的 討 議 ヲ 經 以 上 毛 花 豆 等
先 方 之 認 入 一 方 於 之

MT 1710372 271

1-1968

(五) 八巻 (電信課)

二同意セハル慶ヲ以テ場合ニ依リ現揮立
事業ハ契約締結ト同時ニ會社創立委員
ノ名ニ改メルヲ必要トスルニ至ルハ
ヤルニ依リ其場合ヲ豫想シ
ナキ様報知度ニ
ナキ様報知度ニ

MT 1710372

272

1-1968

0175

秘

大正拾四年十月二十二日 本有 着

幣原外務大臣

田中大使

末延、中里ヨリ

十一月十九日發貴電ニ関シ

(一) 既開油田ニ就テハ十六日ノ會議ニ於テ大体當方ノ希望ニ近キモノニテ決定セリ

(二) 試掘區域ニ就テハ我方ニテ選定權ヲ有スルコト及試掘已ハ複數ナルコトノ主張ヲ繰返シ結局先方ハ我カ試掘ノ結果ヲ利用セントスルモノナルヲ以テ無價値ノ所ヲ異フルコトナシト述ヘタルモ選定權當方ニアリトノ主張ニ對シテハ依然容認セス免ニ爾先方ニテ熟考スヘントテ留保トナレ

外務省

リ依テ今後如何ニ成リ行クヤ不明ナルモ場合ニ依リテハ條約ノ解釋論トシテ政府間ノ交渉トナルハシ

(三) 三年間欠損トナル收支計算ハ最初ノ目論見書ノ建方ニ依リ且先方原案ノ要述通りトシタル場合ノ計算ニテ即チ支出増加ノミヲ計上シ收入増加ノ方面ニ何等手ヲ觸レサルヲ以テ假令課税使用料(社會保險、火災保險其他ハ到底問題トナラス)ヲ全部免除セシムモノトスルモ尚十四萬圓ノ欠損トナリ到底貴電ノ趣旨ニ合致セシムルコト不可能ナリ然レトモ若シ前電ノ如キ趣旨ニ依リ假ニ初年度ニ於テ掘鑿坑夫一組ヲ増シ三本ノ新採油井ヲ增加スルトモハ貴電ノ通算ニ年自大ノ計算ニテ幾分ノ利益ヲ得ヘシ將又會社成立後ノ一兩年間ノ欠損ヲ目シテ收益的經營不可能トスル議論ハ北京條約條々條々盾ニ取ル等ノ理申シトノ主張ハ從來數次ニ渡ル計論ニ於テ先方ノ固ク取ツテ動カサル所ナリ

MT 1710372

MT 1710372

1-1968

四 報價率ハ條約ノ文面上總生産額ニ對スル報價主義
ヲ當方ニテ容認シタル今日致シ方ナシ(報價金銀ノ値
段ヲ加州原油標準價值トスルコトヲ先方ニ認メシメ一方ニ
於テ買上價格ヲ其レ以上有利ナルモノトスル貴電ノ趣
旨ハ一應尤モナルガ如キモ露西亞側ヨリ見ハ願ハ不公
平ナル次第ニテ我方ヨリ此ノ主張ヲ為スニ有カナル論據
見當ラス

(六) 右ノ次第ニテ上述ノ如キ方針ヲ採ラサル以上ハ如何ニ先方
ニ讓歩セシムルモ貴電ノ如クナル能ハサル処其結果
會社成立ノ望ナシトセハ遂ニ決裂ノ外ナシト認ム石ニ
對スル御意見返電ヲ請フ但シ返電アル迄會議ヲ中
止セハ期限ハ如何ニスルモ議了スル事能ハス又當
方ノ都合ノミニテ延期セシムルトモ困難ナル付會議ハ
此儘続行ス

外務省

(七) 高ホ者方追加條項タル會社成立近北辰會ニ事業ヲ奉
託スル條項ニ付テハ先夜ノ會議ニ於テハ未タ
決定的ノ討議ヲ經サルモ先方ノ容易ニ同意セサル處
ナルヲ以テ場合ニ依リテハ現在ノ事業ハ契約締結ト
同時ニ會社創立委員ノ名ニ改ムルヲ必要トスルニ至ルヤ
モ計ラレサルニ付今ヨリ其場合ヲ豫想シテ万事業遂
算ナキ様取計ハレ度シ

(五) 無し (電信課)

MT 1710372

276

MT 1710372

275

1-1968

電信課長

大臣

次官

傷

項號

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 對支文化

件名	
綴込名	

11652 略 40

莫斯科 奉省着高田博士 北七前一二

幣原外務大臣

田中大使

第五二部

至急 (北七前)

大正十三年三月四日 記録係受

中里より未送

至急

(北七前)

関係者友

東京相承代表ノ意見ハ前電ノ通りナル
 慮及ビテ株主ヲ「アットラクト」スルヤ否ヤニ作ラ
 ハ奥村氏トモお談セルモ當方ニテハ見込立
 タズ又懐疑成立スルモ將來此ノ地産糧ノ
 問題ニ付テモ多少面倒起ルヤモ計ラレサル
 ニ付當方ノ協定ヲ得ルニ足ラザルモノ有ル

結局會議ヲ折切ルノ分際キモノト認め
 右何令ノ指揮去至急中田電アリタリ

終

MT

1710372

278

MT

1710372

277

1-1968

0:78

電信課長

件名
綴込名

次

サハシノノ板

280

件名

サハシノノ板

次

280

大臣

11693 暗 100 莫斯科發 本者著

大正四年十月三十日午後三時五分

田中大使

大正四年十月四日 記録係發受

幣原外務大臣

項
號

對支文化 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

次官 信

第五〇三號 (三十日前) 至急

貴電第三八〇一號未延發電、將來事
業、同滿遂行及株式募集、好景氣、
ラレハ、責任、中里、嫁、感、有、
お、責任、命、擔、
述、中里、
親展

279

MT 1710372

DIAMOND

「續慨」レコ、上、會議、打、切、外、無
ト、極、言、居、
充、介、詩、ト、セ、
立、場、
打、電、
何、等、
際、
人、格、
一、現、
於、
果、無、

280

MT 1710372

1-1968

将来ノ経営ニ適材ヲ配置セハ之ヲ遂行シ
 得ベシ又海軍側ヲ有利ニ買取ル以上
 本社ガ経営不可能ナルニ理由ナシ
 如何ニアトラクトスルヤ如キハ枝葉ノ問題
 ナリコトハ會社側ニ於テ諒解シ居ル
 事ト察スル。依テ往電第五一三號ニ
 對シ速ニ中里ニ對シ適當ニ挨拶ス様
 取計レ度シ。

MT 1710372

1-1968



28

大 報
電 報

電送第 7585 號
大正 14 年 11 月 29 日 午前 1 時 0 分 發

依頼電報

電信案

日海見書ニ因リ 勿論ニ於テ 好意の
考案ヲ排シ 此レヲアリ 既ニ
下ニ此際チ来ハルニ 限リ 不ト
及ニシニ 調印シ 付シ

外務省

MT 1710372

283

(原議用紙乙) 圓納

電信課長

主任 第一課 起草大正 年 月 日

件名 利権交渉ニ関スル件

宛 左 田中 外務大臣

暗 第三八八 號 急

来延ヨリ 中屋ノ

如何ニ事案ニ付テハ 固ニ
好意政府ニ於テモ 之カ 解決ニ付
外是ニ 適當ノ 援助ヲ 仰セラレ 又

外務省

MT 1710372

282

(原議用紙甲) 圓納

1-1968

電文案

如何也事業是

多少ノ面倒ハア

ルニ将事政府ニ

於テ之カ解決ニ付

外交ノ遠南ノ援

助ヲ致セシ又日論

見書ノ関ニ政府ニ於

テ好意的考慮

ヲ拂ヒシク、アリ然

テハ夏下ニ牛降出

来ルニ限ラズトシテ

尽シタシト調印セウ

レタシ

MT 1710372

284

1-1968

0182

1710372

<p>外務省</p>	<p>八分ノ配當保証</p>	<p>府ニ於テ其立場ヨリ見テ決セラルル外ナシト思考ス</p>	<p>三菱ニテハ</p>	<p>農ニ奥村代表ニ訓令ニタル所ヲ変更シ難シ就テハ政</p>	<p>歐米局長了</p>
------------	----------------	--------------------------------	--------------	--------------------------------	--------------

MT 1710372 285

貴局分五二号ニ付
 送付成内ニ付ス外ナシ
 日中公使
 長官
 長官

1-1968

0:83

電

電信案

外務省

府に於て相當考慮ヲ拂出シワ、アリ 就テ
當下ニ於テ實際出来得ル限リハストヲ查シテ
以上調印セラレタレ

(原議用紙乙) 圓納

MT 1710372

287

電信案

外務省

如何ナル事業ニモ多少ノ面倒アリシニ 將來
政府ニ於テ之カ解決ニ件キ適 當ノ援助
ヲ給セラルル又ハ換補填ノ方法ニ件テ之改

東延ヨリ中里一

平暗

宛

件

管主

區米島鼻

任主

緊需課

(起草大正九年十一月三日)

電信課長

(原議用紙甲) 圓納

利権支拂用ニ付米島鼻

名込綴

田中使

發

野原ハ

青白田村米島鼻ニ付

MT 1710372

286

1-1968

0:184

電信案

外務省

府に於て相當考慮ヲ拂出シワ、アリ 就テ
 當下ハ、以際出来得限リハ、ストヲ査シテ
 上ニ 調印セラレタレ

(原議用紙乙) 圖納

MT 1710372

287

電信案

外務省

又目通包書之旨、
 感申シ、以規政府之方針、
 好意的考慮を以テ、
 アリ、然テハ、當下ハ、以際出来
 得限リ、ハ、ストヲ査シ、
 調印セラレタレ

主管 區米局長

主任

緊要録

(起草大正七年十一月十八日)

電信課長

電信案

(原議用紙甲) 圖納

MT 1710372

286

1-1968

0:85

電信課長

電信案

主 管 區米局員

主任

區米局員

(起草大正十一年十一月十日)

(原議用紙甲) 圖納

① 電信科

田中左使

野村三三

未定ヨリ中電ハ〇如クナル事
為ニ之多少ノ百割ハナル事
將軍路得ノ於電ノ力解決
ノ付ニ電局ノ補助ヲ仰セラル

電信課長

外務省

ヲ補セラル又ハ換補填ノ方法ニ付テハ改

野村三三
田中左使
川平ニシ
將軍路得
電信課長

MT 1710372 286

(原議用紙乙) 圖納

府ニ於テ相當考慮ヲ拂ヒワキアリ 就テ

黄下ニ於テ際出来得ニ限リベストヲ査シテ

以上 鋼印セラレタレ

電信案

外務省

MT 1710372 287

1-1968

0:86

電信課長

件名
綴込名

改一

大臣

11760 暗

モスコウ発 千台 五八、三〇
本者着大正四年十月二十九日五、二〇

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
對支文化

門
類
項
號

華京外務大臣

田中大使

大正四年十月四日 記録係

第五一九号ノ一 (三十八日)

貴電亦三八一号ニ関レ

二十五日アラロフニ面合利権交渉ハ貴我双方ノ努
力ニ依リ余程進捗セルモ尚重要ナル問題ニ付意
見ノ一致ヲ見ズ其ノ内ニ於テ石油交渉ニ関レ
特ニ貴方ノ考慮ヲ求ムトテ左ノ主張ヲ敷衍力
説セリ、

關係等

MT 1710372

288

ASIAN RECORDS

(一) 買上権ハ日本ノ必要上到底同意スルヲ得ズ全
條項ハ全部削除ヲ希望ス。
(二) 所有権ハ日本側ニ依リテ建設セウシ占領解除ノ
際引渡サレシモノハ尚依然日本側ニ属ス之ガ
露玉側ニ帰スベキ理由ヲ解スルヲ得ズ然リト虽本
問題ハ利権契約ニハ直接明示ナキヲ以テ契約ノ
調印ハ日本側ノ財産ニ對シ使用料ヲ支拂ハサル
諒解ノ下ニ行ハレム。

(三) 試堀区域問題ハ條約ノ明文ハ別トシ少クトモ
日本ガ希望セル六百平方露里ニ對シテハ必ず試堀
セラルコトヲ明ニセウシタム尚報償及課税ニ對シ
テモ多少ノ希望アルモ此際ハ詳細ヲ述バズ之

MT 1710372

289

1-1968

1968

対してモ貴方ニ於テ幾分ノ譲歩ヲイラレ度キ旨
 述ハクル也「ア」ハ熱心ニ聴取リ関係方面ト協議
 ノ上至急回答スベキヲ約セリ。
 右ニテ解決ノ途ニ進ムベシト考ヘ居ルニ最近ニ
 至リ利権會議ニ於テ中里ニ對シ労働者「コウラ
 ジ」浦塩支那ニ申込之ニ對シ就業地往復
 ノ運賃並就業決定ヨリ現地に到着迄約一ヶ月
 半ノ貸銀ヲモ支拂フベキ提議アリ右ニテハ過大ノ
 負担トナルノミナラス斯ル切迫セル際ニ於テ之ヲ應
 諾セシメントスルガ如キハ難キヲ強ユルヤモ計ラズ
 ト思考セルニ依リ(續ク)

MT 1710372

290

1-1968

0:88

官憲ハ訓令ニ置カレタト
其ノ快諾ヲ得タリ依ッテ此ノ際
浦塩ニ於ケル労働者募集ノ件ヲ述
ルルハ其ノ旨趣ハ建意ナルト旨ヲ述
ハ是亦協議スベリ何トカ妥協ノ途
ニトテ餘リ重大視セ不次ノ石炭
電第五一八号ノ成行ヲ述ベ折角
進ミタル交渉ヲ決裂セシムルハ遺憾
テ何トカ貴方ニ於テ譲歩ヲ示サ
ルハ本使ニ於テモ調印セシムル
事ハ旨趣ハ其ノ意ヲ諒シ是亦
是亦

MT 1710372 293

慮スベキ旨ヲ約シタリ右ノ成行
ハ月唯日、最終日ニ至リテハ判明
従テ訓令ヲ請フ途ニ於ケルハ其ノ
及顧問トモ充分會議ノ上最善ノ方
法ヲ執ル様益カスベキ也實際ノ
ハ多ク違ルハストナキヲ保セ不
ニ於テモ日附ハ十月三十日トスル
事アリ

MT 1710372 294

1-1968

0:90

高橋 海軍大臣 田中 外務大臣

11760 暗

モスコウ発
本着着大正四年十月二十九日辰五、二〇

幣原外務大臣

田中大 狭

矢野 龍雄

改一

第五一九号ノ一(三)
貴電ヲ三三八(一)号ニ関レ

二十五日アラハラフニ面合利権交渉、貴我双方ノ努
力ニ依リ余程進捗セルモ尚重要ナル問題ニ付意
見ノ一致ヲ見ズ其ノ内ニ於テ石油交渉ニ関レ
特ニ貴方ノ考慮ヲ求ムトテ左ノ主張ヲ敷衍力
説セリ、

(一) 買上権ニ日本ノ必要上到底同意スルヲ得ズ全
條項ニ全部削除ヲ希望ス、

(二) 所有権ニ日本側ニ依リテ建設セウシ占領解除ノ
際引渡サレシモノハ尚依然日本側ニ属ス、之ガ
露玉側ニ帰スベキ理由ヲ解スルヲ得ズ、然リト雖本
問題ハ利権契約ニハ直接明示ナキヲ以テ契約ノ
調印ニ日本側ノ財産ニ対シ使用料ヲ支拂ハサル
諒解ノ下ニ行ハレム、

(三) 試堀区域問題ハ條約ノ明文ハ別トシ少クモ
日本ガ希望セル六百平方露里ニ対シテハ必ず試堀
セラルニトテ明ニセウシタム、尚報償及課税ニ対シ
テモ多少ノ希望アルモ此際ハ詳細ヲ述ベズ之ニ

MT 1710372

295

MT 1710372

295

1-1968

対してモ貴方ニ於テ幾分ノ讓歩ヲイラシ度キ旨
述ハクル処「ア」ハ熱心ニ聴取リ関係方面ト協議
ノ上至急回答スベキヲ約セリ、
右ニテ解決ノ途ニ進ムベシト考ヘ居ルニ最近ニ
至リ利権會議ニ於テ中里ニ對シ労働者「ウ」ラ
ビオ浦塩支那ニ申込ム之ニ對シ就業地往復
ノ運賃並就業決定コリ現地到着迄約一月
半ノ貸銀ヲモ支拂フベキ提議アリ右ニテハ過大
負担トナルノミナラス斯ル切迫セル際ニ於テ之ヲ應
諾セシメントスルガ如キハ難キヲ強ニルヤモ計ラズ
ト思考セルニ依リ(續ク)

MT 1710372 297

1-1968

0192

11/17 8.5
暗
140

莫斯科
本若着 吉田子 十月廿九、三、五。

改一

幣原外務大臣 田中大使

第五一九部ノ二(三)

廿八日再ハアラハレ、而人會先日ノ主張
對スル 回答ヲ求メタル 処右ハ折
角考慮中、テ月曜日ニハ回答
得ベク 從テ其ノ日中ニ 調印ニ得ベ
ト述ベタル、依リ 斯クテハ方一貴方
ノ回答ニ 不満足ノ 莫アリテ 更
交渉ヲ要ストモハ 餘日ナキニ 水

MT 1710372 298

トト詰リタルニ 利権會議トシテハ
月曜日ヲ以テ 終結スベキモ 我々
ノ外交的交渉ハ 更ニ 数日 繼續スル
モ 要、差支ナク 當方ニ 於テ 貴方ノ
如ク 本件ヲ 田中 解決ニ 考
ナルニ 依リ 数日ノ 知ハ 格別問題トス
ルノ 要ナカルベリ 要スル、月曜日ノ 回
答、依リ 調印ニ 至ルニ 希望ス 而モ 方一
纏リ 難キ 場合ハ 引續キ 交渉ト
成連ニ 纏ハルコトト スベントスルニ 依
リ 然ラハ 樺太ニ 於ケル 作業 繼續ニ 関
期日ノ 莫ク 嚴格ニ 解釋セタル 様

MT 1710372 299

1-1968

0193

官憲の訓令に置かれタキ旨ヲ述
 へ其ノ快諾ヲ得タリ依ッテ此ノ際前記
 浦塩に於ケル労働者募集ノ件ヲ述ベ
 ノ如キ苛酷ノ負担ヲ此ノ級々持テ去
 カルキハ甚カ速意ナルト旨ヲ述ベタル
 ハ是亦協議スベリ何トカ妥協ノ途アル
 ントテ餘リ重大視セ不次、石炭ノ関シ
 兎弗五ノ八ノ成行ヲ述ベ折角此處迄
 進ミタル交渉ヲ決裂セシムルハ遺憾
 テ何トカ賣方ニ於テ譲歩ヲ示サル
 レハ本使に於テモ調印セシムル極力
 不卜旨述ハタル、其ノ意ヲ諒シ是亦考

MT 1710372 300

慮スベキ旨ヲ約シタリ右ノ成行、テカ事
 ハ月曜日ノ最終日、至可クハ判明セ不
 從テ訓令ヲ請フ違ナカルトキ代表
 及顧問トモ充分會議ノ上最善ノ方
 法ヲ執ル様益カスベキモ實際、調印
 ハ多少遅ル、コトナキヲ保セ不其ノ場合
 三於テモ日附ハ十一月三十日トスル
 積リナリ

MT 1710372 301

1-1968

0:04

(五) 試振、政府の議、五、決議、五、事、ト、ス。
(六) 實、五、議、五、事、ト、ス。

然ルニ右(一)乃至(四)迄、諸問題、暫ク指テ(六)ニ就テ、
本便ニ於テ外務部ニ極力交渉中ナルニ鑑ミ、中里ニ
打シ何等讓歩ノ色ヲ示スベカラサル旨再三申入リ、中里
モ之ヲ充分理解シ居タルニモ不拘、不得已前題ノ通
内諾ヲ受ヘタル趣ニテ甚大遺憾ニ堪ヘズ、右ニ就テハ
中里モ恐縮シ居レルガ免ニ毎以テ私的會談ハ東京
ヨリ、四州ヲ条件ト為シ居ル事ニモアリ、幸々中里トモ
打合セ、上、明廿日、今一、心、本便ヨリ外務部ニ打シ、
ヲ試ムル心算ナリ、高、何レニスルモ會議ハ廿日ヲ以テ、
及シ契約調印ハ、奉文ノ整理等、關係上、教、日、

MT 1710372 304

ハト見込ナリ

MT 1710372

305

1-1968

0196

五

11791
(四) 161

莫斯利發
今省着

大正四年十一月廿一日

幣原外務大臣

田中大臣

文書印

第五二二號

徑電第五二九號之因

非人日石油會議ヲ開キ本決重要事項ヨリ議事ヲ始
メタルニ報續深稅買上ノ諸問題ニ就キ互ニ讓ラズ
一応昨日中ニ裁キヨリ文書ヲ以テ決答ヲ與フル事ト成
リタルモ是方ノ切望ニ依リ懇談ヲ爲シ其結果裁方
東京ヨリノ函訓如何ヲ条件トシ且速記ヲ以テ停止トシ全
然私的會談ヲ爲スニ至レルガ其會議ニ於テ大特允ノ
通告被スル事トナレリ

MT 1710372

306

- (一) 報續率ハ五萬噸五分ニ是萬噸ヲ増スル母ニ式應五毛
ヲ増ス 廣油ニ就テハ拾噸ヨリ九拾噸迄是割五分ノ五拾
噸以上ハ拾噸ニ母ニ五分ヲ増ス而シテ金納トスル價格標
準ハ加州山元價格ニ依リ但シ橫濱相場場立ワニ
至ラハ同相場場ヨリ運賃・保險料・諸掛ヲ差引キタルモノ
ニ依ル事ヲ得
- (二) 深稅ハ是處高ノ參分ハ厘四毛トシ價格標準ハ報
續ノ場合ニ準ス
- (三) 便用料ハ拾毫奉ニ 利権者ノ希望スルモノヲ納入
スル分トスルモ油井ノ金ニナルモノアリ
- (四) 岩倉者ノ應備問題(徑電第五二九號)ハ浦鹽業
廠前港運賃分ノ賃金ヲ支給セ又政府ノ許可アリハ
亞港又ハ尾港ノ労働者等ニ申込ヲ爲シ得

MT 1710372

307

試振ハ双方以議ノ上決定スル事トス。

六) 實上確ハ指(着)以(着)上(着)刻(着)在(着)分(着)ヲ(着)認(着)ム。

然(着)ニ(着)右(着)一(着)乃(着)至(着)由(着)及(着)他(着)諸(着)向(着)題(着)ハ(着)暫(着)ク(着)指(着)テ(着)六(着)ニ(着)就(着)テ(着)。

存(着)後(着)ニ(着)於(着)テ(着)外(着)務(着)部(着)ニ(着)極(着)力(着)交(着)渉(着)中(着)ナル(着)ニ(着)鑑(着)テ(着)中(着)里(着)ニ(着)。

封(着)シ(着)何(着)等(着)讓(着)歩(着)ノ(着)途(着)ヲ(着)示(着)ス(着)ベ(着)カ(着)ラ(着)ザ(着)ル(着)旨(着)再(着)三(着)申(着)入(着)レ(着)中(着)里(着)ニ(着)。

之(着)ヲ(着)充(着)分(着)諒(着)解(着)シ(着)居(着)タル(着)ニ(着)モ(着)不(着)拘(着)不(着)得(着)已(着)前(着)頭(着)ノ(着)通(着)。

内(着)諾(着)ヲ(着)身(着)ハ(着)タル(着)趣(着)ニ(着)テ(着)甚(着)ク(着)遺(着)憾(着)ニ(着)堪(着)ハ(着)ズ(着)右(着)ニ(着)就(着)テ(着)。

中(着)里(着)モ(着)悲(着)痛(着)シ(着)居(着)ル(着)ガ(着)兎(着)ニ(着)毎(着)以(着)上(着)私(着)的(着)會(着)談(着)ハ(着)事(着)業(着)。

ヨ(着)リ(着)回(着)洲(着)ヲ(着)条(着)件(着)ト(着)爲(着)シ(着)居(着)ル(着)事(着)ニ(着)モ(着)ア(着)リ(着)旁(着)々(着)中(着)里(着)ト(着)。

打(着)合(着)セ(着)レ(着)上(着)明(着)辨(着)日(着)今(着)一(着)心(着)存(着)便(着)ヨ(着)リ(着)外(着)務(着)部(着)ニ(着)封(着)シ(着)送(着)送(着)。

ヲ(着)試(着)ム(着)ル(着)心(着)算(着)ナ(着)リ(着)尚(着)何(着)レ(着)ニ(着)ス(着)ル(着)モ(着)會(着)談(着)ハ(着)日(着)ヲ(着)以(着)テ(着)解(着)。

決(着)シ(着)契(着)約(着)調(着)印(着)ハ(着)条(着)文(着)ノ(着)整(着)理(着)等(着)ノ(着)因(着)係(着)上(着)數(着)日(着)後(着)ト(着)。

ハ(着)見(着)込(着)ナ(着)リ(着)。

MT 1710372

309

MT 1710372

1-1968

0:98

電信課長 (藤井)

大臣

次官 傍

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

對支文化

類別
項目
號

岡田 俊

件名	莫斯科 著 十二月二十七日
綴込名	五

莫斯科 著 十二月二十七日

田中 大使

大正四年三月四日 記録係 接受

第五二六號 (三十四日)
 三月十日アラロフ、會見シテ
 (一)石油買上権ノ件ヲカ説シタル、アハ本
 使ヨリノ申出アリタル、為メ一割五分ニ讓
 歩シタリト述ベ更ニ折衝ヲ重ク遂ニ
 他ノ條件ニ付テ我カ方カ相者讓歩ヲ
 為サバ何トカ協議ノ解地ナキニ非ズト

MT 1710372 310

折レ来リタルニ依リ段々前頭仕色ノ経緯
 モアルニト故然ラバ買上権ノ條項ヲ全
 部削除セバ報償率ハ先方業(三万圓
 基準)ニ同意方本使ニ於テ取計フベシト
 提議シタルヲアハ右ナラハ相控ニ応ジ得
 ハキモ本三十日ノ利権會議ニ於テ確答ス
 現存ト述ベタリ會議ノ結果ハ通報スベシ
 (二) 派利権問題ニ関シアハ「スターエフ」
 及「小原」ノ關係
 北辰令ノ關係
 明カナラズトシ若シ「ス」ノモノミナラバ之ヲ
 國有トシ従テ使用料ニ高率トナササル
 ヲ得サルモ混合ニ居ルヤニ認メラレ、ヲ以テ

MT 1710372 311

1710372

特ニ四分ノ譲リ文ニ於テナリトノ趣旨ヲ示
ハタシテ自果テテ地ノ所有権ノ帰属問題
題ハ政府間時来ノ交渉ニ譲ルベリ利
権契約トシテハ案文ノ通りニテ譲即セ
シヤベキ旨答ヘズケリ

(三) 石炭ニ付テハ先方案ニテハ当業者ニ於テ
到底採算不可能ナリトノコトナリモ互譲
毎協ラ望ム旨懇切ニ文ニテアリ極メテ
同意ナリモ技術者ニ於テ採算充分可能ナ
リト主張シ居ル関係モアリ極メテ譲サノ
譲歩ナラズ協談ニ応ジ得ベキヤニ考フル
旨答ヘズルが結局月下当業者ヨリ東京

312

MT 1710372

(四) 二請訓中ナリトハ代表ノ其フベキ決意
延期方申入タルニ「ア」ハ来ルニ三日(未曜)朝
迄猶豫スベキ旨約シタリ就テハ其レ
間ニ合フ様回訓方取計ハシ度シ
奥村ハ目下尚ホ譲即不能ナリト固執シ
唐ノ毛(四)塚原ハ譲即ニ異議ナク又(四)奥
村ノ言ニ依ルニ雄野組井組合関係ニ付テ
ハ譲即可能ノ状態ニアリトノ事ナリ就テ
ハ万々一北樺太石炭組合カ譲即セサル
場合(一)ハ譲即セシムヤク(二)ハ代表権ヲ
有スル奥村ノ措置上一任スルニ此ノ場合
同條件ニテカ企業者ハ収益的徑管可能

313

MT 1710372

1-1968

0200

LIBRARY
UNIVERSITY OF TORONTO
1968

ミシテ大企業者ハ不可ナリトノ論未ダ達
スベク在ヲモトク考慮ノ上至急何カ由
アリタシ (後リ)

MT 1710372

314

1-1968

0201

電信課長 藤井

大臣

次官

務

亞細亞

延五

11822
海路

莫斯神農
本府有看 本年五月一日

105500

件名	
綴込名	

321

門
項
號

歐通條情人會文對
米商約報事計書化

大至急

第五二七號

（重要）

幣外外幣大臣

大正十四年五月四日 記録係 接受

月尾空

幣外外幣大臣 閣下、石油利益交渉
場、五月十日、會議、於東京上及報償
問題、有報償金納、場合、標準價
格、予、石油、作、加、如何、後、又、輕油、
作、予、墨、西哥、情、後、銀、元、先、外
幣、外、通、法、之、其、他、既、在、通、

全部了也、
（帳）

MT

1710372

316

MT

1710372

315

1-1968

0202

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

對支文化

門類
項號

件名	
綴込名	

11836

(助)

12

第斯科芬

丁二月一日前二三五

第亞外務大臣

田中大使

大正六年三月四日 記録係接受

317

第五三八號 (二日前)

中里ヨリ 末迄一

昨松丁三時 契約文ノ全部 議了

不委細 敬ヨリ

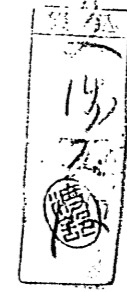
(終)

MT 1710372

1-1968

0203

11月23日
第斯科科
本省着目
大正十四年十一月十日
日本



第
中
大
使

幣外務大臣
宛在露
田
中大使

第
五
二
八
號

ス
ミ

中里ヨリ未延

三十日
收
時
契
約
文
ノ
全
部
ヲ
議
了

及
委
細
收
手
續
ニ
タ
リ

終

MT 1710372

318

1-1968

0204